



142  
690

# 主要工業概覽

第四部雜工業

農商務省工務局

(活字ヲ以テ筆寫ニ代フ)  
(大正十年三月印刷)

# 始





一、本書 正九年十月頃迄ノ事實ヲ記載ス  
 一、最近ノ生産額其ノ他ノ計數ハ未タ統計ノ據ルヘキモノナキヲ以テ局員ノ實地調査等ノ方法ニ依リ推定シタルモノ少カラス  
 一、本書ハ未タ主要工業ヲ網羅シタルモノト云フコトヲ得ス漸次完成ヲ期ス  
 一、本書ハ之ヲ四部ニ分ツ即第一部纖維工業、第二部化學工業、第三部機械工業、第四部雜工業トス

主要工業概覽第四部雜工業正誤表

頁	行	誤	正	頁	行	誤	正
五〇	一	紐	鈕	一〇五	一	鈕	鈕
五〇	二	タルハ	タルハ	一〇五	二	鈕	鈕
四九	三	生	主	九八	三	筒	筒
四九	四	同	同	九八	四	他	地
四八	五	同	同	九八	五	筒	筒
四八	六	同	同	九八	六	筒	筒
四七	七	同	同	九八	七	筒	筒
四七	八	同	同	九八	八	筒	筒
四七	九	同	同	九八	九	筒	筒
四六	一〇	同	同	九八	一〇	筒	筒
四六	一一	同	同	九八	一一	筒	筒
四六	一二	同	同	九八	一二	筒	筒
四五	一三	同	同	九八	一三	筒	筒
四五	一四	同	同	九八	一四	筒	筒
四四	一五	同	同	九八	一五	筒	筒
四四	一六	同	同	九八	一六	筒	筒
四四	一七	同	同	九八	一七	筒	筒
四三	一八	同	同	九八	一八	筒	筒
四三	一九	同	同	九八	一九	筒	筒
四三	二〇	同	同	九八	二〇	筒	筒
四二	二一	同	同	九八	二一	筒	筒
四二	二二	同	同	九八	二二	筒	筒
四一	二三	同	同	九八	二三	筒	筒
四一	二四	同	同	九八	二四	筒	筒
四一	二五	同	同	九八	二五	筒	筒
四〇	二六	同	同	九八	二六	筒	筒
四〇	二七	同	同	九八	二七	筒	筒
四〇	二八	同	同	九八	二八	筒	筒
三九	二九	同	同	九八	二九	筒	筒
三九	三〇	同	同	九八	三〇	筒	筒
三九	三一	同	同	九八	三一	筒	筒
三八	三二	同	同	九八	三二	筒	筒
三八	三三	同	同	九八	三三	筒	筒
三八	三四	同	同	九八	三四	筒	筒
三八	三五	同	同	九八	三五	筒	筒
三八	三六	同	同	九八	三六	筒	筒
三八	三七	同	同	九八	三七	筒	筒
三八	三八	同	同	九八	三八	筒	筒
三八	三九	同	同	九八	三九	筒	筒
三八	四〇	同	同	九八	四〇	筒	筒
三八	四一	同	同	九八	四一	筒	筒
三八	四二	同	同	九八	四二	筒	筒
三八	四三	同	同	九八	四三	筒	筒
三八	四四	同	同	九八	四四	筒	筒
三八	四五	同	同	九八	四五	筒	筒
三八	四六	同	同	九八	四六	筒	筒
三八	四七	同	同	九八	四七	筒	筒
三八	四八	同	同	九八	四八	筒	筒
三八	四九	同	同	九八	四九	筒	筒
三八	五〇	同	同	九八	五〇	筒	筒



378-18/

雜工業調查

目次

總說

- 第一 漆器製造業……………一
- 第二 花莖製造業……………二
- 第三 野草莖製造業……………二
- 第四 眞田製造業……………二〇
- 第五 刷子刷毛製造業……………二七
- 第六 帽子製造業……………三六
- 第七 鈕釦製造業……………四五
- 第八 竹製品製造業……………五六
- 第九 皮革製品製造業……………六一

大正  
10.6.21  
寄贈

〃 寄贈本

頁	目次	漆器製造業	花莖製造業	野草莖製造業	眞田製造業	刷子刷毛製造業	帽子製造業	鈕釦製造業	竹製品製造業	皮革製品製造業
一	二	二〇	二七	三六	四五	五六	六一	六二	六三	六四



第十 セルロイド製品製造業……………六八

第十一 洋傘製造業……………七三

第十二 玩具製造業……………八〇

第十三 鉛筆製造業……………九三

第十四 縫針製造業……………一〇二

目次

雜工業調査

雜工業調査

總說



本調査ハ漆器、花菱、野草菱、真田、刷子刷毛、帽子、紐釦、竹製品、皮革製品、セルロイド製品、洋傘、玩具、鉛筆、縫針ノ十四種工業ニ就テ其概要ヲ述ヘシモノナリ前記十四種工業ノ生産高ハ大正七年ニ於テハ總額約一億五千百十九萬餘圓ニシテ其主ナルモノハ帽子ノ千七百十八萬餘圓、玩具ノ一千六百五十九萬餘圓、真田ノ一千六百三十八萬餘圓、紐釦ノ一千三百餘萬圓、皮革製品ノ一千三百餘萬圓、洋傘ノ一千百餘萬圓等トス之ヲ戰前(大正二年)ノ生産高ニ比較スルトキハ平均約三倍ニ増加シ其増加率ノ主ナルモノハ縫針ノ二十四倍、玩具ノ九倍、紐釦ノ五倍、帽子ノ三倍六分、刷子ノ三倍等トス更ニ海外發展ノ狀況ヲ見ルニ大正八年ニ於テ總輸出額約九千四百七萬餘圓ニシテ其主ナルモノハ真田ノ二千餘萬圓、玩具ノ一千三百餘萬圓、紐釦ノ一千三十一萬餘圓、刷子刷毛ノ一千二十九萬餘圓、帽子ノ八百五十七萬餘圓、野草菱ノ五百五十三萬餘圓等ニシテ之ヲ戰前(大正二年)ニ比較スルトキハ平均約二倍五分ニ増加シ其増加率ノ主ナルモノハ縫針ノ四十二倍、鉛筆ノ二十五倍、玩具ノ五倍、刷子刷毛ノ四倍、紐釦ノ三倍八分等トス斯ク生産額及輸出額ニ於テ著シク増加セル所以ノモノハ歐洲戰爭中交戰國ニ於テハ國ヲ擧ケテ軍事ニ從ヒ産業ヲ顧ミルノ迫ナク從テ物資ノ缺乏甚シク本邦製品ノ需要著シ



ク増加シタルヲ以テ斯業ノ物興ヲ見タルモノトス、而シテ此ノ盛況ニ乘シテ粗製濫造ヲ爲スモノ少カラス、海外需要國ニ於ケル不評甚シキヲ以テ「セルロイド」製品、刷子、鉛筆、眞田等ニ就テハ農商務省令ヲ以テ輸出検査ヲ執行シ其他ノ製品ニ於テモ同業組合等ニ於テ之ニ倣ヒタルモノ少カラズ粗製ノ弊漸次矯正セラレシト雖尙根絶スルニ至ラス然ルニ平和來ニ及ンテモ海外需要國ニ於ケル産業頓ニ恢復セサリシ故本邦斯業ハ概シテ從來ノ好況ヲ持續シ大正八年末ヨリ大正九年初頭ニ及ンテハ海外ヨリノ注文殺到シ最般盛時代ニ入レリ然ルニ大正九年三月以降財界不況ノ影響ニヨリ金融梗塞シ海外ヨリノ契約取消シ頻出シ七、八月頃以降ニ至リテ其ノ悲況最甚シク工場ノ休業又ハ廢業スルモノ續出スルニ至レリ。

第一 漆器製造業

(一) 生産高

年次	家具及裝飾品	飲食器	其他	計
大正三年	三八二一、六七八	三、〇四一、六四〇	一、八七五、一六二	八、七三八、四八〇
同 四年	四、六五六、〇七四	三、〇二六、六三六	二、〇九五、二九九	九、七七八、〇〇九
同 五年	四、九〇四、五九五	三、四七五、六九九	二、二〇三、九一六	一〇、五八四、二一〇

同 六年	五、七九四、二一四	四、六七八、四二七	二、四四〇、〇〇三	一二、九一二、六四四
同 七年	七、二四二、一五八	六、一三九、五五八	二、八〇九、〇二九	一六、一九〇、七四五

(イ) 製造戸數 (大正七年) 七、四一六

(ロ) 職工數 男 一九、一八九 計 二二、六六八  
女 三、五四九

(ハ) 會社數 一六

(ニ) 會社資本額 三二五、六〇〇圓 (拂込二三四、八〇〇圓)

(二) 輸出高

年次	價額
大正四年	五六五、八六六
同 五年	一、一〇二、五九一
同 六年	一、〇四九、一二五
同 七年	九五〇、九〇四
同 八年	一、八二四、二五八
同 九年(九月迄)	二、三三〇、四一三

漆器國別輸出表 (大正八年)



漆液ノ消費高ニ就テハ精確ナル數字ヲ得サルヲ以テ參考トシテ本邦生産高ト輸入高ヲ左ニ掲ク

支那漆液 約二十五萬貫 百三十六萬圓  
 本邦漆液 約十萬貫 百七十萬圓

原料消費高

葡	北	加	墨	秘	智	亞	伯	埃	喜望峯殖民地及ナタル	濠	新	布	計
米	合	拿	西	露	利	爾	刺	刺	及	太	西	哇	
國	衆	陀	哥	露	丁	然	西	爾	爾	刺	刺	蘭	
牙													
一	四	三	三	一	一	四	三	一	二	二	一	一	一、八二四
三	七	三	三	四	九	〇	〇	三	二	四	〇	五	

支	關	香	英	海	蘭	佛	露	比	暹	英	佛	白	伊	和	瑞	西	丁
那	東	領	領	峽	領	領	領	律	賓	賓	賓	蘭	耳	太	班		
州	東	印	印	殖	印	印	細	亞	亞	亞	亞	亞	亞	亞	亞	亞	亞
那	東	度	度	地	度	度	島	羅	利	西	義	利	蘭	典	牙	抹	
一	二	七	二	四	二	一	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
〇	一	二	二	九	二	二	七	四	四	八	四	一	一	一	一	一	一
七	四	七	二	五	二	二	二	四	四	八	四	一	一	一	一	一	一

四



(一) 生産及輸出狀況

漆器ノ生産ハ、全國ニ亘ルト雖其ノ主産地ハ和歌山、石川、京都、福島、静岡、新潟、富山、愛知等ノ府縣ニシテ、其ノ製品ハ家具類、食器等ノ内地向ヲ主トス、元來漆器ハ本邦美術ノ代表的作品ノ一ニシテ特ニ京都、金澤等ニ於テハ古來金銀蒔繪ノ方法ニヨリ、或ハ螺鈿、堆朱等ヲ應用シテ時代的美術ヲ發揮シ、其ノ海外ニ知ラルル所以モ亦此點ニアリ、然レトモ一面、漆器ハ實用品トシテノ需要甚多クシテ、石川縣ノ食器、和歌山縣ノ黒江漆器(會席膳、宗和膳)、京都府ノ飲食器(膳、椀)、愛知縣ノ一閑張、神奈川縣ノ箱根丸盆、静岡縣ノ家具(鏡臺、硯箱)等廣ク世ニ知ラルル、而シテ輸出品ヲ生産シツアルハ静岡縣(ハンカチーフ箱、手袋箱、盆類等ニシテ主トシテ特許第二七八〇五號硬化透明彩漆法ヲ施セリ)、神奈川縣(灰皿、白粉入れ)、愛知縣(「カレセット」、「ランプジエード」、盆等ノ一閑張)等ノ諸縣トス、而シテ其ノ輸出ハ甚タ振ハス、價額ニ於テ漸次増加ノ傾向ヲ示セルモ是レ主トシテ市價ノ騰貴ノタメニシテ數量ニ於テハ大差ナキカ如シ、而シテ大正九年ニ入り内地向及輸出向共財界ノ影響ヲ受ケ四月頃ヨリ(毎年春期ヨリ夏期ニ及ンテ閑散期トス)不況トナリ、八月頃迄ハ殆ト休業狀態トナリシモ内地向ノミハ九月以降(例年秋冬ニ入レハ各地ノ婚禮、祭禮等ノ期ニ入ルヲ以テ需要多ク斯業活氣ヲ呈スルヲ常トス)稍恢復ヲ見ルニ至レリ。

(二) 市價 (大正九年十月現在)

静岡縣輸出漆器(硬化透明彩漆法ヲ施セルモノ)

- (イ) ハンケチ箱 (中六寸 長六寸五分 ノモノ) 一組當リ 一・五〇<sup>円</sup>
- (ロ) 手袋箱 (中二寸五分 長一尺) 同 一・五〇
- (ハ) 盆 (中九寸 長一尺) 同 二・三〇

但シ二箇ヲ以テ一組トス

和歌山縣黒江漆器

- (イ) 會席膳 (百枚) 七〇〇<sup>円</sup>
- (ロ) 宗和膳 (六十枚) 五〇〇〇

(三) 品質

漆器ハ本邦ノ特産ニシテ外國品ト比較スヘキモノナキモ、其ノ品質漸次粗惡ニ傾キツツアリ、其主ナル點ハ、(一) 木地ノ破損シ易キモノ(二) 塗表面ノ剝落シ易キモノ等トス。

木地ノ破損シ易キハ、主トシテ其ノ乾燥不十分ナルニ起因スルモノニシテ、輸出品ニ於テ其ノ不評著シキモノアリ、即チ海外需要地ニ到リテ收縮ヲ來タシ、表面ニ裂レヲ生シ又ハ木地破損シテ使用ニ耐ヘサルモノアリ、表面ノ剝落シ易キハ塗下地ノ粗惡ナルニヨルモノニシテ粗製ノ結果ナリトス。



(四) 包裝

會席膳ハ一枚ツツ日本紙ノ袋ニ入レ周圍ニ藥ヲ詰メテ百枚(宗和膳ハ六十枚)ヲ厚六分ノ樅板箱ニ入レ更ニ外部ヲ繩締メトス。

輸出向盆類ハ一枚毎ニ紙袋ニ入レ尺五寸以上ノモノハ一組(二枚)ツツ「ボール」箱ニ入レ(尺五寸以下ノモノハ二組ツツ入レ)其ノ周圍ニ藥ヲ詰メ尺五寸内外ノモノハ百組(尺八寸位ノモノハ六十組入レ)ヲ一箱トシテ木製外箱ニ入ル。

二 結 論

漆器ハ殆ト内地向需要品ニシテ、然モ本邦ノ特産ナレハ海外ヨリノ競争輸入品ナキヲ以テ、内地向製品ニ就テハ特ニ悲觀ノ材料ヲ認メサルトモ、輸出向ニ就テハ研究スヘキ一、二ノ問題アルヲ認ム、抑々我漆器カ海外人ニ需要セラレシハ、其ノ意匠カ本邦ノ特色ヲ發揮シ、高尚且優雅ナルヲ以テ骨董的趣味ノ下ニ使用セラレ、且ツ其ノ質ノ強靱ナルカ爲、漸次實用的ニモ使用セラルルニ至リシモ、意外ニ實用的價值ノ減少セラレ行クヲ認メラレ其ノ需要増加セサルモノナルヘシ、之カ改良ヲ圖ラントセハ(一)木地乾燥、(二)バルブ木地、(三)意匠等ニ就テ研究スルノ要アルヘシ。

木地乾燥ノ不十分ナルハ前述ノ如ク、製品ノ精粗ニ及ホス影響大ナルヲ以テ、先ツ之レカ統一ヲ圖ルコトヲ緊要トス、而シテ其ノ方法ハ木地検査ヲ執行シテ其ノ検査済ノモノヲ使用セシムルカ、或ハ

府縣又ハ同業組合ニ於テ木地乾燥場ヲ設ケ、其ノ乾燥済ノモノヲ使用スルヲ適當ノ方法ト認ム。

「バルブ」木地ハ、裂レ又ハ破損ノ生スルコトナク小形ノ家具ニ應用シテ最適當ナルモノト認ム、既ニ獨逸ニ於テハ「バルブ」木地ヲ應用シテ本邦模造漆器ヲ製造シ、其堅牢ニシテ實用的ナル點ニ於テ、遙ニ本邦製品ノ上ニアリキ、本邦ニ於テモ已ニ「バルブ」木地ノ研究漸次進歩シテ見ルヘキモノアルモ未タ彎曲スルモノ少カラサル故、更ニ經濟的製造方法ノ研究ヲ要スルモノト認ム、此研究ニシテ完成セハ、小物ノ輸出漆器ノ非難ハ一掃セラルルニ至ルヘシ、其ノ他木地ニ關シテハ、東京工業試驗所ノ始作ニ係ル鋸屑木地アリ、其ノ製作ノ容易ナルコト價格ノ廉價ナル點ニ於テ、木地改良上、多大ノ貢獻アルヘシ、漆器ノ意匠ハ、本邦古來ノ特色ヲ發揮シタルモノナレハ、從來洋風ノ趣味ヲ含ミタルモノ甚タ少シ、然レトモ漆器ハ單ニ海外ノ骨董的趣味ニ投スルニ止マラスシテ、實用的需要ニ應スヘキ必要アルニ於テハ、其意匠洋風ノ考案ヲ要スヘキナリ、彼ノ静岡縣ノ輸出漆器カ、漸次海外ノ需要増加セルハ、此意匠ニ負フ所蓋シ甚大ナルモノト認ム。

第二 花莖製造業

(一) 生産 高



年次	種別	四十碼物		其他		價額計
		數量	價額	數量	價額	
大正四年		三〇,七七一	一,四六五,三七五	一一,三四八,一三四	一,四五〇,七〇〇	二,九一六,〇七五
同五年		三三,五八九	二,〇七二,九九五	一一,三七九,六二六	二,四〇三,〇〇三	四,四七五,九九八
同六年		五〇,九六六	二,四二〇,四〇六	九,〇三三,一六九	二,四八五,九二九	四,九〇六,三三五
同七年		四六,〇四七	四,七六〇,三三九	八,八〇二,六七八	三,三三三,〇九四	七,九九五,四三三
同八年		不明	不明	總數量 五,九一六	不明	七,〇一〇,三〇九

(イ)製造戶數 一一,三四九  
 (ロ)職工數 二九,八七五  
 (ハ)會社數 四  
 (ニ)會社資本額 一,一五一,〇〇〇圓 (拂込額三二六,〇〇〇圓)

年次	種別	連		製單		製		價額計
		數量	價額	數量	價額	數量	價額	
大正四年		一四〇,一五六	八八七,〇一六	三,五三三,八八八	一,三九三,七九五			二,二八〇,八一
同五年		一八,四四五	八五九,七七八	四,二九六,六三三	二,〇〇三,五九九			二,八六三,三九七

花庭國別輸出表 (大正八年)

年次	種別	連	製單	製	價額計
同六年		六八,八一八	一,六〇三,七九九	一,五九七,六一	二,二七九,五七〇
同七年		五〇,八三三	一,八六七,八七七	二,四三二,六六八	二,九〇六,一〇六
同八年		五五,六五四	一,九〇六,二二七	二,二二〇,八六六	二,九一九,四六七
同九年(九月迄)		三九,二五九	一,九五一,四四六	二,八〇九,八七八	三,五二一,七三三

國別	種別	連		製		單		製	
		數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
支那	東州	一,九一一	九二〇	二〇	三九一	一四五	二一八		
香港	度地	一〇四	六七二	九	七九	三	一五		
英領	印度	一,六九九	六七五	二一	三〇	七	一五		
海峽	殖民地	一,六九九	六七五	二一	三〇	七	一五		
蘭領	印度	二八九	二八九	三	二二	二	九		
英領	亞細亞	二八九	二八九	三	二二	二	九		
露領	亞細亞	二八九	二八九	三	二二	二	九		
比領	賓諸島	二八九	二八九	三	二二	二	九		
暹羅	吉羅	五,四五六	六三	六三	六五八	一四	八		



(一) 生産及輸出狀況

一 最近ノ狀況

佛蘭西	四、四六四	九	二五	二〇
白蘭義	二〇二	四	二	一
和蘭	一、五〇七	二六	三四	二〇
丁抹	一、一九四	二四	一一	八
北米合衆國	二九、三八四	四〇七	四〇九	二九八
加拿大	一、四八五	一七	二四	三六
秘露陀	四八七	七	五	四
智利	二五五	三	一	一
亞爾然	一六〇	二	二	五
喜望峯殖民地及ナタ	二八一	三	六	四
濠太刺利	五四五	七	二	一
新西蘭	一六五	二	四	一
布哇	三、四五一	四八	一八	七
伯刺西爾	一二四	一	一	三
計	五五、六五四	七〇八	一、九〇六	二二、二一〇

花蕊ノ製造區域ハ、一府二十七縣ニ亘ルモ其ノ輸出品ノ主産地ハ岡山、福岡、廣島、香川ノ四縣ニシテ兵庫、高知、大分、石川等ニ於テモ僅少ナル輸出品ヲ産シ、爾餘ノ諸縣ニ在リテハ、専ラ内地用花蕊ヲ製出スルノミナリ、而シテ主産地ニ在リテハ、概シテ同業組合ヲ組織シテ製品ノ検査技術ノ指導等ニ當リ、銳意斯業ノ發展ニ資シ、其ノ品質及意匠ニ於テ大ニ改良セラレタリ、輸出ハ明治三十五年ニ於テハ六百七十餘萬圓ノ最高ヲ示セシモ、粗製濫造ノ結果、漸次減少セルヲ以テ、農商務省ニ於テハ明治三十八年ヨリ花蕊検査所ヲ設置シテ粗製品ノ取締ヲ爲セシ以來粗製ヲ矯正シ、製品統一セラレシト雖、米國ニ於テ種々新規敷物ノ製出スルアリテ、其ノ需要増加セルヲ以テ、本邦製花蕊ノ輸出漸次減少シ、明治四十四年ニハ三百七十餘萬圓トナリ、更ニ歐洲戰爭中ニ於テハ、二百萬圓臺ヲ上下シツツアリ、而シテ大正九年ニ入り、二月頃ヨリ三月ニ及ンテ好況ヲ呈セシモ、四月ニ入り財界不況ノ影響ニヨリ、米國ヨリノ新規注文減少シ、五月ニ入り農繁期ニ入りシコトトテ製産一層減少シテ取引不況トナリ、八月以降ニ於テハ取引殆ト杜絶シ、十月頃ヨリ其ノ不況著シクシテ殆ント製造休業状態トナレリ。

(二) 市價 (大正九年十月現在)

百八十經機械織一本分 一五・五〇

(三) 荷造包裝



長物ハ二卷ヲ一束トシ之ヲ横二箇所、豎一箇所繩ヲ以テ結束シ、更ニ「アンペラ」ニテ卷キ締メ、其ノ兩端ハ別ニ「アンペラ」ヲ添ヘテ封スルモノトス。  
 廣幅物ハ、五枚又ハ十枚ヲ一束ニセルモノ最多ク、更ニ之ヲ前記ノ如ク「アンペラ」包トス。  
 小物ハ普通百枚(五十枚モアリ)ノモノヲ、約十枚位ツツ疊ミ重ネテ繩ヲ掛ク、小物ハ又箱詰トスルモアリ即チ二百枚乃至三百枚ノモノヲ約十枚ツツ重ネ合セテ木箱ニ容ル。

二 結 論

斯業ハ、明治三十五頃ニハ其ノ輸出六百七十七萬餘圓ニ達セシコトアリシモ、漸次減少シテ、戰爭中ニ於テハ本邦工業界ノ勃興時代ナルニ拘ラス不況ヲ見タリ、其ノ原因種々アルヘキモ、蓋シ海外ニ於ケル新規敷物ノ製出盛トナリ、其ノ需要増加シタル爲本邦花苧ノ需要ハ漸次減少シタルモノノ如シ近時本邦野草苧ノ米國向需要逐年増加セルヲ見ルモ其ノ傾向ヲ窺フニ足ル。

第三 野草苧製造業

(一) 生産 高(同業組合ノ調査ニ基ク推定)

年次	種別	數量(方碼)	價額(圓)
大正四年		七一三、〇〇〇	七一〇、〇〇〇
同五年		一、八九六、〇〇〇	一、九〇〇、〇〇〇

年次	種別	數量	價額
同六年		二、二九五、〇〇〇	二、三〇〇、〇〇〇
同七年		五、九二七、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
同八年		一三、七五四、七三六	八、三九〇、三八九

(イ) 製造戸數 二〇四  
 (ロ) 職工數 一、八〇四人

年次	種別	數量	價額
大正四年		一、三四〇、一四八	六四八、五六一
同五年		三、五五二、九四六	一、七二四、四一二
同六年		四、二八三、七六〇	二、〇八六、六二六
同七年		五、三八八、五〇三	二、六四八、三八三
同八年		一〇、七一、〇五四	五、五三二、九五七
同九年		一二、八八九、二〇五	七、二八二、五六六

備考 野草苧ノ輸出ハ殆ト全ク神戸港ヨリスルヲ以テ前記ノ表ハ神戸港輸出表ヲ採用セリ  
 大正八年ニ於ケル國別輸出統計

支那	輸出先種別	數量	價額
	那	三一、二二五	一五、九二三







野草薙ハ主トシテ岡山、兵庫ノ二縣ニ於テ生産シ、其ノ他香川、愛媛、廣島等ノ諸縣ニ於テモ多少ノ生産アリ、而シテ其ノ需要ハ殆ト全ク海外ニシテ、主トシテ北米合衆國ニ輸出セラル、輸出額ハ戰前(大正元年)ニ於テハ二十六萬餘圓ニ過キサリシカ、歐洲戰爭以來逐年其ノ額ヲ増加シ、大正八年ニ於テハ五百五十三萬餘圓(内北米合衆國四百八十八萬餘圓)ニ達シ、大正八年末ヨリ大正九年ノ初頭ニ於テハ、米國ヨリノ註文殺倒セルヲ以テ輸出ニ於テハ、大正九年一月ヨリ活況ヲ呈シ、二月中ニ於ケル輸出ハ百萬餘圓(内米國九十萬餘圓)ノ最高ヲ示シタリ、三月以降ノ財界變動ノ影響ヲ受ケ四月頃ヨリ不況ヲ來タシ、五月ニ入りテハ海外ノ註文更ニ無ク、市價ノ暴落等ノ爲ニ取引皆無ノ狀況ニ陥リシ故、當業者ハ生産調節ノ必要ヲ感シ、同業組合ノ決議ニ依リ、岡山縣ニ於テハ十月一日ヨリ兵庫縣ニ於テハ十月十五日ヨリ十二月三十一日迄、組合員ノ操業ヲ休止シタルヲ以テ、茲ニ本邦野草薙ノ生産ハ皆無ノ状態ニ陥レリ、然レトモ其ノ輸出ハ前契約ノ殘品發送ノ爲、相當ノ額ニ達シ、即チ自一月至九月輸出額六百二十萬餘圓(一千九十五萬餘方碼)ニ達セリ。

備考 野草薙トハ、米國製「グレッタス」ニ類似セルモノニシテ、洋風室内敷物ノ一種ナリ、其組織ハ、粗ナル太絲(一寸間約八内外ノ密度トス)ヲ經トシ、筒類、蕨類、經木類(殆ト蕨ヲ使用ス)ヲ數本集合シタルモノニ細絲ヲ螺旋狀ニ纏卷シテ結束シタルモノヲ緯(或ハ其ノ緯ト緯トノ間ニ篠ヲ入レタルモノアリ)トス而シテ其種類約六十以上ヲ算ス

(二) 外國品トノ比較

本邦製野草薙ノ競争品ト見ルヘキモノハ、米國製野草薙ナリトス、而シテ米國製品ハ「ワイヤグラス」ト稱スル草ヲ使用シテ製作セルヲ以テ本邦製品ニ比シ、其ノ彈力性アリテ耐久力ニ富ムカ如シ、從テ其ノ價格高價ナルモ「クレッタス」「デルタツクス」「ウイロー」等ノ諸會社ニ於テ大規模ノ工場組織ニ依リ製造セラルルモノナレハ、品質自ラ統一セラレ、意匠又嶄新ニシテ需要者ノ嗜好ニ投シツツアルノ狀況ナリ、唯本邦製品ハ主トシテ價格低廉ナルノ故ヲ以テ米國人ニ需要セラルルニ至リシト雖、粗製濫造ノ結果非難相次テ起ルニ至レリ、其主ナル點ヲ擧クレハ左ノ如シ。

- (一) 經絲ノ細キモノ (二) 經絲間ノ密度廣キモノ (三) 緯絲(蕨)ノ數及太サノ不均一ナルモノ
- (四) 緯絲ノ打込不充分ナルモノ (五) 「ゲンコツ」ノ多キモノ (六) 長サノ不充分ナルモノ
- (七) 捺染ノ不完全ナルモノ (八) 運搬中ニ汚損ヲ來セシモノ (九) 絲切レ等トス。

(三) 荷造 包裝

幅九尺長十二尺ノモノハ、其ノ需要最多キヲ以テ、其ノ包裝ノ概要ヲ述フルコト左ノ如シ。  
一枚ツツ卷キ込ミテ長サ九尺直徑約一尺ノ圓柱狀ニナシ之ヲ「アンペラ」ニ枚半ヲ以テ包裝ス。

二 結 論

本邦製野草薙ハ前述ノ如ク、米國ニ於テ盛ンニ需要セラルルニ至リシ所以ノモノハ、惟フニ、我製品ノ品質ニ比シ、價格割合ニ低廉ナルト戰時中米國ニ於ケル「クレッタス」會社ハ軍需品ノ製造ニ從



事シ、殆ト「クレツクス」ノ製造不可能トナリシノミナラス、平和來ニ及ヒテモ未タ其ノ全製造能力ヲ恢復セサル爲、供給力ノ不足シタルニ依ルヘシ、然ルニ今ヤ本邦斯業ノ悲境ニ沈淪セルニ際シ愈米國カ戰前ノ製造能力ニ恢復スルニ至ラハ、我製品ハ之ニ對スル方策トシテハ極力從來ノ粗製ヲ戒メ、價格ノ低廉ト品質ノ堅實トヲ以テ、曩日ノ旺盛ナル輸出ヲ挽回セサルヘカラス。

第四 眞田製造業

(一) 生産高

年次	麥稈眞田	經木眞田	麥稈經木交眞田	マニラ眞麻田	計
大正三年	一〇八三、二八〇	三、一八三、七〇〇	一三〇、六〇〇	—	一七三、八一九
同四年	一四九、六七〇	二、六七〇、七〇〇	一、六八五、〇〇〇	—	九、四四三、一三二
同五年	八八六、七〇九	二、三四四、四一四	三、七〇〇、九〇〇	三、六六六、九三二	一四、〇〇五、七七
同六年	一〇五三、三〇〇	一、四一、二八	六八、九六〇	八、一七八、〇九	一六、五八五、四二八
同七年	一五四九、二八九	三、五五四、五五	一六〇、五〇〇	四、九六六、〇三二	一六、三六七、九二九
同八年	不明	不明	不明	不明	不明

(イ) 製造戸數 (大正七年) 八四、一八〇  
 (ロ) 職工數 男 六九、〇八六 計 二三四、九九六  
 女 一六五、九一〇  
 (ハ) 會社數 二四  
 (ニ) 會社資本額 (資本及拂込濟額) 五、一五八、三〇〇圓 (拂込五、一二六、八五〇圓)

(二) 輸出數量價額

年次	麥稈眞田	經木眞田	麻眞田	其他	計
大正四年	一〇、四六六、五三七	三、九三一、一四七	三、八二七、二五五	四、三〇〇、〇〇〇	五二、五九九、九九
同五年	一、七三三、六〇五	三、四〇〇、七九	二、〇三三、七五五	四、〇七八	一四、一三一、五七
同六年	一六、三八、一七六	五、五九九、五五三	三、九七七、〇五二	一、七六、四九二	六、九三三、二六二
同七年	三、〇四三、四〇一	五、四七七、七五	二、六〇一、六六六	二、五六〇、二二	一六、三二八、四一四
同八年	一六、九四、一八九	八、〇三〇、三七九	三、三、七〇、〇四五	一、三、二六〇	五、七七、八七三
同九年(九月迄)	一、〇七八、二〇〇	三、三三二、二九九	二、〇七二、七一九	二、六、五八〇	一八、一七一、七一
	三、七九九、二四八	四、六八、四五九	七、七八、八五四	二、四、九三五	三七、一五六、一五三
	二〇、七二二、九五	六、一〇五、八二三	一、八六六、八七六	九、五五七	一一、九九六、二八
	一、四六、四八三	一、五二五、三四七	六、九九二、七五七	—	四五、四八六、九六四
	一六、三二、八九五	三、四三、七一九	二、二、六、四九一	—	二〇、〇四四、六七
	一、三五、二二〇	一、四四三、〇六	五、〇〇一、〇五四	七、一、〇〇九	三二、〇三、四九五
					一九、八九五、九九

眞田輸出國別表 (大正八年)



國別種別	麥稈		經木		麻	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
支那	三	三				
海峽殖民地						
比律賓諸島	三三九	一三二	一六八	一	四	一五
英吉利	六七八	三八四	一六八	五二	一〇,三九七	三八九三
佛蘭西	一,五五六	九五五	二六八	五	二,七三三	一,〇三四
獨逸	八二	六六	一五	二	四九	三三
白耳義	二八	六六	一五	二	二九	八
伊太利	二二	六三	一五	二	八一	三〇
瑞典	三四	二五	一五	三	九二	六二
和蘭					三七	一四
丁抹					七二	二二
北米合衆國	一〇,九八八	六,〇〇三	四,〇八三	九四	四,五六三	一,六七四
加拿大	一五三	六七	五四	七	七	二六
智利	一六	六				
亞爾然	二四五	一四				
伯刺西	二〇	一〇				
埃及	五〇	三〇				
新計	二〇,七二二	一,二四九	六,一〇六	一,五五	一八,六九九	六,九九二
濠太刺利	三四五	一五八	一九	九	四三四	一六七
新西蘭	一六	八			一五	五

年次種別	數量	價額
大正四年	一,二二四,六一二	三二二,九二七
同五年	一,〇四九,二八七	二六四,五五六
同六年	一,二八三,六一一	三三二,二四一
同七年	九四二,八三一	四一二,九三四
同八年	一,一〇三,〇二三	五六九,三二四
同九年(九月迄)	五六五,三二六	五二三,九〇三

製帽用真田、輸入數量價額

年次種別	數量	價額
大正四年	一,二二四,六一二	三二二,九二七
同五年	一,〇四九,二八七	二六四,五五六
同六年	一,二八三,六一一	三三二,二四一
同七年	九四二,八三一	四一二,九三四
同八年	一,一〇三,〇二三	五六九,三二四
同九年(九月迄)	五六五,三二六	五二三,九〇三

製帽用真田國別輸入表(大正八年)

國別種別	數量	價額
支那	一〇,九二九	五五〇
東州那	九〇	四



英 利	三 八	二 四
吉 利	一、〇三〇	五 六
太 計		九 七
伊 計		五 六

一 最近ノ狀況

(一) 生産及輸出狀況

麥稈眞田ノ主産地ハ岡山、香川等ノ諸縣ニシテ、岡山縣ニ於テハ主トシテ單四菱<sup>拾</sup>（幅十三耗乃至十五耗ノモノヲ取引上ノ習慣トシテ斯ノ如ク記載ス以下之ニ倣フ）及<sup>拾</sup>（全生産高ノ約六割ヲ占ム）ヲ生産シ、三平<sup>拾</sup>（全生産高ノ約三割ヲ占ム）之ニ次ク、香川縣ニ於テハ、主トシテ單四菱<sup>拾</sup>、<sup>拾</sup>（全生産ノ約八割ヲ占ム）ヲ生産シ五菱、九平等之ニ次ク、斯業ハ其原料内地ニ豊富ニシテ、而モ其製造方法ハ本邦人ノ特長タル手工ニ適合セルニ、一面ニ於テ府縣當局ノ指導ト、同業組合ノ活動トニヨリ著シク發達シ、戰前（大正元年）已ニ三百餘萬圓ノ輸出アリ、歐洲戰爭勃發以來一時其輸出不況ヲ見シモ、大正五年頃ヨリ漸次恢復シ、大正七年ニハ英米ノ輸入制限ノ爲、稍不況ヲ見シモ大正八年之ヲ撤廢セラレタルノミナラス、伊、瑞等ノ製品出廻不充分ナリシ爲本邦品ノ需要多ク其ノ他各地向共一體ニ船腹不足緩和ノ爲、輸出ノ増進ヲ致シ大正八年ニ於テハ一千四百九十九萬圓ニ達シ、大正九年一月頃ニ於テハ般盛ノ極ニ達セリ、然ルニ四月以來財界變動ノ影響ニヨリ、市價暴落甚シク遂ニ九月

以降ハ最不況ニ陥リ、各地共殆ト休業狀態トナレリ、然レトモ其輸出ハ、三月以前ノ註文多カリシ爲一月以降九月ニ至ル輸出總額一千三百三十餘萬圓ニ達セリ。

麻眞田ハ主トシテ神奈川、新潟、石川、東京、愛知、静岡等ノ府縣ニ於テ生産シ、製品ノ種類ハ玉絲、卷絲ノ十三打及七打トス、其ノ原料ハ「マニラ」産ノ輸入麻ナレトモ、其ノ製造方法ハ本邦子女ノ手工ニ適合シケレハ、府縣當局ト同業組合ノ努力ニヨリテ、歐洲戰爭以來著シク海外發達ヲ爲シ、大正五六年頃ニハ全盛ヲ極メ、其ノ輸出一千二百餘萬圓（北米合衆國四百二十五萬餘圓、英吉利七百二十六萬圓）ニ達セシモ、大正七年以來英、米ヘノ輸出減少シ（流行ノ變遷ニヨルモノノ如シ）大正八年ニ於テハ約七百萬圓ニ低下セシカ、大正九年三月以降ノ財界不況ノ影響ニヨリテ市價ハ生産費以下ニ低落セルヲ以テ取引行ハレス、七八月以來各地殆ト休業ノ狀態トナレリ、唯兵庫縣下ニ於テハ麻モ「眞田（麻眞田ノ變形品）ノ製造ニ從事シツツアリ、而シテ麻眞田ノ輸出ハ「ストツク」ノ消化ニヨリ一月以降九月ニ至ル總額ハ約五百萬圓ニ達セリ。

經木眞田ノ輸出狀況モ麥稈眞田ト殆ト同様ノ事情ニアリ而シテ輸出品ノ種類ハ殆ト芋木製四ミリメートル乃至七ミリメートルノ一重三平ニ限ラル。

(二) 市 價（大正九年九月）

各品種別ニ述フルコト煩雜ナルヲ以テ主要ナル製品ニ就キ其ノ市價ヲ記スルコト左ノ如シ。



麥稈真田 (一反當リ)

單四菱 (摺耗) 五〇錢

麻真田 (七本打一等品一反當リ)

玉絲製 三六錢九厘

卷絲製 三三錢

經木真田 (一反當リ)

三平 (♀) 一四錢

(三) 荷造包裝

麥稈真田

一反ヲ長サ約十九吋ニ卷キ二箇所ニテ結束シ、之ヲ約五百反内外重ネ壓縮器ニテ縮メ固メテ約十六才ノ容積トシ、經約二分半位ノ麻繩ニテ之ヲ堅ク結束シ、外部ヲ西洋紙ニテ二重ニ包ミテ内裝トス、尙蕪莖又ハ「アンペラ」ニテ二重ニ包ミ更ニ上下二面ニ杉中貫ヲ當テテ外裝トス。

麻真田

内裝ハ麥稈真田ト略同一トナルモ麻真田ニ於テハ、約二十五反毎ニ西洋紙ニテ包ミ之ヲ約十一才位 (千反内外)ノ容積トシ、木製外箱ニ容ルルモノトス。

經木真田  
内裝、外裝共麥稈真田ト同様ナルモ外裝ノ容積ハ約十三才位 (千反内外)トスルヲ普通トス。  
第五 刷子及刷毛業

(一) 生産高

年次	種類別	齒磨用	理髮用	糊付用	其ノ他	計
大正三年	大	四五五、一八七五	二〇九、七七七	一三、三三三	五、九二五	五、二八〇、九二一
同 四年	大	一九五、四七〇	三〇三、〇〇四	一〇、三三三	七、五五〇	三、二二五、五七〇
同 五年	大	三七七、七九四	三九、二九	一〇、三三三	五、七七二	四、八〇九、一六九
同 六年	大	一六六、二六一	八七、九七	一〇、三三三	七、四六二	三、三八七、五〇三
同 七年	大	四七二、五八一	一九、九七四	一五、二七二	一〇、七七三	六、二二一、一五八
同 八年	大	二〇七、二八八	七〇、三三三	九、二四二	一四、九〇七	四、三〇八、八七六
同 九年	大	七二八、五〇四	一三、四二一	一七、五〇一	一、六二七、九	八、六七二、二五五
同 十年	大	三六三、三三六	三八、一〇〇	一、二七四	一、七三三、八六八	五、八五五、九二〇
同 十一年	大	九三三、六四三	四九、〇七四	一五、五五三	一〇、八〇〇、〇六	一〇、九九五、二七六
同 十二年	大	七〇八、九六六	一、九三三	一四、〇〇六	一〇、二八、九六	九、三九四、一八九

(イ) 製造戸數 (大正七年末) 七七七  
 (ロ) 職工數 男三、〇八七人 計 六、八一一人  
 (ハ) 會社數 女三、七二四人 一三



(二) 會社資本額 (資本及拂込濟額) 四八八、〇〇〇圓 (內拂込四二八、〇〇〇圓)

年次種別	齒磨用	理髮用	爪用	衣服用	其ノ他	計
大正三年	一、八五〇、四三〇	二、八六五、六五〇	四、五六六、一七〇	六、〇〇一、〇〇〇	一、〇九二、〇〇〇	二、六九五、二七〇
同 四年	一、〇六五、六〇七	九、一六六、三四〇	四、一〇七、五五〇	一、〇三、七九〇	一、〇三、七九〇	三、八七一、〇二一
同 五年	三、一六五、九三六	一、五四五、〇〇〇	五、七三、三三〇	二、六七、四八〇	一、五〇、八八〇	五、三〇一、七〇七
同 六年	一、五二六、二二五	一、五四五、〇〇〇	四、九四、四一五	二、七九、五二四	一、六六、九三〇	六、〇七四、五七〇
同 七年	三、六〇二、〇二七	七、九三三、五六八	四、九〇〇、一〇〇	二、七九、五二四	一、六六、九三〇	一〇、〇〇〇、六四七
同 八年	二、〇三二、二六七	二、九二九、九四一	四、九〇〇、一〇〇	三、〇一、八二五	七、四四、四七	一〇、〇〇〇、六四七
同 九年(十月迄)	四、七二七、〇八〇	一、八四八、六三三	二、七五、四八八	一、九一、九〇〇	六、三三、九四〇	七、一五、四四五

(三) 刷子及刷毛輸出國別表 (大正八年)

關別	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	
種別	齒磨用	理髮用	爪用	衣服用	其ノ他	種別	齒磨用	理髮用	爪用	衣服用	其ノ他

關別	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	
種別	齒磨用	理髮用	爪用	衣服用	其ノ他	種別	齒磨用	理髮用	爪用	衣服用	其ノ他
支那	二、七二九、九	二、九二	二、四二	八	二、七	二、七	二、七	二、七	二、七	二、七	二、七
關東	八、一〇七	六	四〇	二	七	二	二	二	二	二	二
香港	八〇五	七	四〇	二	七	二	二	二	二	二	二
英領印度	八、三三〇	九	四〇	二	七	二	二	二	二	二	二
海峽殖民地	六八七	六	四〇	二	七	二	二	二	二	二	二
蘭領印度	二、〇〇一	三	五	四	二	二	二	二	二	二	二
佛領印度	二、九二	二	五	四	二	二	二	二	二	二	二
露領亞細亞	一、七三三	二	三	一	二	二	二	二	二	二	二
比領亞細亞	三、〇九六	三	二	一	一	一	一	一	一	一	一
暹羅	四、八五	四	三	一	一	一	一	一	一	一	一
英領西羅	八、四二七	一、三二	一、三〇	一、五〇	九、六二	一、四九	八、九	四	一	一	一
佛領西羅	一、三八五	二〇六	一、七	一、五〇	九、六二	一、四九	八、九	四	一	一	一
白蘭義	四、四七	一〇	一	二	一、四九	八、九	四	一	一	一	一
伊太利	三、四八七	五	一	二	一、四九	八、九	四	一	一	一	一
和蘭	九六八	一四	一	二	一、四九	八、九	四	一	一	一	一
瑞典	七九二	一四	一	二	一、四九	八、九	四	一	一	一	一
丁拿	一、〇九〇	二四	一	二	一、四九	八、九	四	一	一	一	一
北拿	三、四九八	三三	一	二	一、四九	八、九	四	一	一	一	一
加拿大	二、三六七	一六	一	二	一、四九	八、九	四	一	一	一	一
墨西哥	一、二六七	一五	一	二	一、四九	八、九	四	一	一	一	一



秘露	智利	亞然	伯刺	埃及	喜望峯殖民地及ナタル	濠太刺	新西蘭	布計
九四九	三二九	一四七六	五〇八〇	一九八三	一五三七	一〇、四八	五、七五	三、五四
一六	五四	二二	六六	二九	二二	二二	六四	九
二二	六二	一四	二六	二九	二九	一五八〇	四四六	一
一	三	一〇	九	三	三	九	二九	二、三〇
一	一	二五七	五	四	四	九五五	一六八	一
一	一	一	一	一	一	三	三	三
九	五	八	三	二	一	三	八	四
三	四	七	一	一	一	一	三	三
二	一	八	四	二	六	三	五	七

一 刷子刷毛業最近ノ狀況

(一) 生産並輸出状況

我國ニ於ケル輸出刷毛ハ、大阪市内外ヲ以テ主ナル生産地トシ、全國生産高ノ約八割ニ及フコトハ本年九月ニ於ケル輸出刷子聯合會ノ検査手數料、大阪ニテ一千八百圓、東京ニテ百五十圓、神戸ニテ二百圓、廣島三十圓ノ割合ヲ見ルモ明ナリ、從テ大阪方面ニ於ケル狀況ヲ見テ大勢ヲ推定スルコトヲ得ヘシ。刷子製造業ノ最モ繁忙ヲ極メタルハ大正七年下半年期即チ輸出検査施行當時ニシテ、大阪ノミニテ

一箇月四千八百圓ノ検査料ヲ支拂ヒシカ、大正八年三、四、五月ノ頃ハ三千圓乃至三千四、五百圓ニ減シ、大正九年八月ニ於テハ、更ニ此ノ半額ニ過キサル状態ナレハ、推シテ生産數量ノ激減セルヲ知ルヘキモ、此ハ主トシテ好況時期ニ於テ續出シタル中以下工場ノ多クカ廢業シタルニ因ルモノニシテ、必シモ各工場ニ於テ製産制限ヲナシタルニ因ルニ非サルナリ。  
今右ニ全國ノ大正九年最近數箇月ニ亘ル輸出刷子製産數量ヲ記セム（理髮用、齒磨用、爪用、衣服用）

月別	數量	價額
四月	五八五、一七〇	九七八、六七八
五月	四八一、〇六七	八四二、三〇一
六月	四四二、九六一	七三二、三三九
七月	三七八、八八三	六八〇、一六〇
八月	三二四、二〇五	五五〇、〇六三
九月	三三四、二四二	六六七、九三二

同年七、八月頃ヨリ新規註文甚シク減少シ、先約相續イテ解除セラレタル爲、手許註文數ハ昨年頃ニ比シ半數以下ニ減シタル觀アリ。



我國刷子刷毛ノ重ナル輸出先ハ北米合衆國ニシテ英吉利、加拿陀、南米、濠洲、南洋諸島、南亞弗利加等之ニ次キ、伊太利、瑞典、諾威、和蘭、露西亞等ノ戰時中開拓シタル販路ニシテ、大正九年七月、八月頃ヨリ取引甚タ振ハス。

北米ニ於ケル本邦製刷子ハ逐年増加ヲ示シ來リシカ大正八年ニ至リテ其ノ前年ヨリモ減退シ、大正九年五、六月頃迄ハ尙此ノ状態ヲ持續シ、同年八、九月頃ニハ市場遽ニ沈靜ノ觀アリ、今右減退ノ理由ヲ見ルニ、參戰後米國軍隊ニ於ケル齒刷子ノ需要莫大ナルモノアリシト、之ニ對スル本邦品ノ見越輸入盛ナリシ爲、大正六、七年殊ニ七年ノ巨額ノ輸出ヲ見ルニ至リタルカ、大戰熄ミテ軍隊向需要ハ皆無トナリ、多數ノ見越輸入品ハ殘存スルニ至リ、爲ニ大正八、九ノ兩年ニ亘リ米國輸入ノ減退ヲ來シタルモノノ如シ、然ルニ一面米國內ニ於ケル刷子刷毛製造業ヲ見ルニ近年漸次發達ヲ示シ、機械植ニ依リ各種刷子ヲ製造シ、就中纖維又ハ豚毛ノ爪用刷子、セルロイド齒用刷子ノ如キハ案外安價ヲ以テ相當ノ製品ヲ出シ、可成リ賣行アルカ如クナレ、之レ亦本邦品輸入減退ニ影響アルモノノ如シ。

近來我國ニ、三工場ニ於テ木刷子機械毛植方法ノ行ハルモノアリ、米國ニアリテハ殆ト全部之ヲ使用シ、佛國ニテハ兩法相半スル状態ナルカ、此ノ機械植ハ手植ノ約十倍ノ能力ヲ有シ、且ツ個々ニ針金ヲ以テ植付タルハ、頗ル堅牢ナル製品ヲ得レトモ、在來本機ニ依リテ製造シタルモノハ重ニ下等品(爪用刷子ノ類)ニ限ラレタリシト、且ハ其ノ製品ノ精巧、體裁一般ニ需要者ノ嗜好ニ適セザリシ關

係上尙大部分ハ手植ニ依ル模様ナレトモ、前記ノ如ク米國ニテ、將來益本機ノ發達進步ニヨリ精巧廉價ナル製品ヲ出スニ至ラハ、我製造業者ニ執リテ尠カラサル打撃ナルヘシ。

戰前米國ニ於テハ、我製品四割、佛國品四割、他ハ獨逸、英吉利等ヨリ輸入ヲ仰キシカ、戰時中我製品ハ其ノ七、八割ノ多キヲ占ムルニ至リタリ、而シテ米國ニ於テ販賣セラルル歐米品ト稱スルハ、上等品右ハ中等品ニ限ラレ、我製品ハ上、中、下等品ヲ通シテ販賣セラルルヲ以テ、下等品ハ全ク我獨占スル所ニ乘シ、此種ノモノニ付我製造業者間ニ於テ參謀ノ競争ヲナシ、爲ニ我製品品質ノ聲價ヲ失墜セシメタル憾アリ。

英國ニ於テモ大年八年ニ於ケル我國ヨリノ輸入額ハ前年ニ倍加シタリト雖、既ニ六、七月頃ヨリ減退ノ色アリ、是レ即チ戰時中又盛ニ見込買入ヲナシ、短キハ三箇月、長キハ一箇年先ヲ見越シテ盛ニ仕入タルモ、休戰ト共ニ之等貨物ノ前途頗ル不安定トナリ、一方英國内ニ於ケル本品製造業ハ軍需品工業ノ閉止ト共ニ漸次復舊シ、其ノ製品ノ市場ニ出ツルモノ漸ヲ追ウテ増加スルニ至リタルヲ以テ、自然在荷豐富ノ状態ニ陥リ、加之日英間ノ爲替相場カ、英國商人ニ取リテ不利トナリ日本ニ於ケル本品値段モ亦二、三割騰貴シタル爲、新規註文ハ殆ト控ヘナルヘカラサルニ到リタルヲ以テ、休戰前ノ註文品到著ヲ了ルト同時ニ、本品ノ輸入一時ニ著シキ減少ヲ見ルニ至レリ。

之ヲ要スルニ、本邦ヨリノ各種刷毛ノ輸入減退ハ在荷ノ豐富、歐米ニ於ケル本業ノ復舊ト其ノ發達



一部製品ノ粗製濫造、爲替相場ノ變調及日本ニ於ケル髯刷子中痘毒病菌附著ノモノアリトノ風説ノ爲世人ノ戒心ヲ招キタルコト等ニ因ルト云フヘテ得ヘシ。

我邦製品ノ海外市場ニ於ケル勢力ハ、未タ販路開拓時代ニ屬シ、我邦一、二ノ製造業者中ニハ可成信用ヲ博シ、其ノ商標ニヨリテ直チニ購入セラルルモノアレトモ、未タ一般的ニ日本製品トシテ安心シテ購入セラルルニ至ルニハ相當ノ期間ヲ要スヘシ、由來我刷子ハ一般ニ價額ノ低廉ト製品ノ精巧ナルコトニ依リ海外ニ歡迎セラレタルモノナルカ、近來我生産費ハ急激ナル騰貴ヲ來シ、大正八年三月頃最高ノ價額ヲ示シ、爾來生産費ノ輕減セラルル機會ナク、大正九年四、五月頃ニアリテ一時輸入價額カ販賣價額ヨリモ二割乃至三割高(在來販賣價額カ輸入價額ノ一割乃至一割五分高)ヲ唱フルカ如キ奇現象ヲ呈スルコトサヘアリ、止ムヲ得ス同年九月頃二割内外値下セルニモ拘ラス、尙製品價額ノ下落ヲ見越シテ註文ヲ差控フルカ如シ。

原料豚毛ハ主ニ支那産ニシテ、露西亞毛ハ長キモ其ノ質脆弱ナリ、價額ハ品質ニ因リ一様ナラサレトモ、普通齒刷子用ニテ大正九年九月頃一斤十二圓内外ヲ唱へ、骨ハ南北亞米利加、英國、濠洲ヨリ輸入シ平均百斤ニ付二十三圓ヲ出テス、又黒丹及紫丹ハ蘭領印度及暹羅ヨリ輸入シ、其ノ他木材ハ内地品ヲ使用ス。

## (二) 外國品トノ比較

精選シタル毛ヲ以テ製作セル木刷子ハ、品質、價額共ニ外國品ト大差ナク、骨刷子ハ其ノ品質、英國、米國品ニ比シテハ遜色ナキモ、佛國品ニハ到底及ハサルモノアリ、是ニ其ノ原料タル豚毛ニ於テ、我刷子ニ供セラルル支那産ノモノハ佛蘭西産ノ毛ニ比シテ、一般ニ光澤少ク品質粗惡ナル上、其ノ製作ニ於テモ佛蘭西品ハ毛植極メテ親切ニシテ、容易ニ脱落スルカ如キコトナク、又柄ハ歐米諸國ニ於テハ純白ノ骨又ハ「セルロイド」製ノ透明ナル籠甲様ノモノハ歡迎セラルルヲ以テ、佛國品ハ能ク此ノ嗜好ニ投シ、精選シタル材料ヲ使用スルモ、本邦品中ニハ粗惡ナル材料ヲ使用スルモノアリ、故ニ米國市場ニ於テ佛蘭西製品ハ我製品ニ比シテ遙ニ高價ナレトモ、品質優良ノ故ヲ以テ彼地ニ長ク信用ヲ博セリ。

次ニ米國品ハ、其ノ勞銀高キモ、機械ヲ用キテ多量生産ヲナス長所アリ、又原料ハ多ク外國ヨリ仰カサルヘカラサルモ、本邦ヨリ刷子ヲ輸入スルニ比スレハ、固ヨリ運賃及輸入税低廉ナリ、而シテ本邦品ハ手工ニ由ル爲製品ノ精巧ナル長所アリ、又本邦ニ於ケル勞銀ハ最近著シク昂騰シタリト雖、米國ノ勞銀ニ比スレハ尙低廉ナリ、斯クノ如ク、彼我兩國製品ニハ一長一短アルヲ以テ、米國內ノ本工業カ何レノ程度迄本邦品ト競争スルヤハ未タ俄ニ斷スヘカラサルモ、本邦當業者ノ戒心ヲ要ス。

## (三) 市 價

刷子ハ、今春以來財界ノ變動ニ際シテモ、其ノ價額ノ下落甚シカラス、即チ大正九年十月頃ニハ齒







模造バナマ製	二九五,二五九	二五,五八八	四七九,〇二五	四,四九七	三,八五九	四,四六六	三,九一六
其ノ他	三,六四七,七二六	二七九,〇八三	五,四六,四四一	四,三〇,八八七	三,五八,八〇二	四,三〇,〇〇〇	二,四七,七六八
計	三,一〇,七	二七,七三三	七五〇,九九九	七九,四四五	一七二,六四五	二,一五,〇〇〇	一,五七,五〇三
	四,三三,八三二	三,三〇,八四五	六六三,六七八	五九,八七〇	六,七五,九六六	八五,七八〇〇〇	六三,三〇,六

三八

三 帽子國別輸出表 (大正八年)

國別	種別		數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
	フエルト製	麥稈製								
支那	一九八,三九	二九,七	三,七,二四三	四,五九	八,三,八三	一,三,四	五,五			
關東	六,四四八	二一八	四,七,七三	五,八	八,四四	一,八	三,五			
香港	四,八五四	七九	七,六五七	四,九	二,四八四	二,七	三,九			
英領印度	一,〇一八	一四	一,五五一	三,八	九,二	六	四,一			
海峽殖民地	一,六〇六	二九	四,二七六	三,二	一,五八	八	八〇			
蘭領印度	五,一八二	七三	二,九五四	一,〇九	五,三三三	六〇	二,〇六			
佛領印度	八九	二	一九三	一			一			
露領亞細亞	四,〇六六	八四	一九二五	三五	二,九三	五	一〇三			
比律賓諸島	一,一七	二	二七	一	三,八〇	六	三			
暹羅	一,四五六	一九	二,六四七	一五	六,三〇	五	二四			

國別	種別		數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
	フエルト製	麥稈製								
英吉利	一八,五八	二	一,九〇,九三五	一九	一,九〇,九三五	一,九〇八	一,五			
佛蘭西	二,四〇		五,四二	二	一〇	一〇	三			
和蘭	一〇六		一,〇六		一	一				
西班牙	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
西班牙	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
西班牙	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一		一	一				
佛蘭	一一		一一		一	一				
西班	一一		一一		一	一				
和蘭	一一		一一							



年次	種別	フェルト製帽子		フェルト製帽體		其他ノ帽子及帽體		計
		數量	價額	數量	價額	數量	價額	
大正四年		三八六	一五、三〇一	六一、五	二、六八四			一、三六六
同五年		七〇六	二〇、七〇四	一一、三〇〇	二、二八七			二、五、四七三
同六年		九五七	三三、九四七	一一、一〇〇	一、六八五			三、七、〇五五
同七年		八二六	三三、八二六	二、五〇四	五〇、〇二六			四、七、七三〇
同八年		七三九	五四、〇〇〇	九六	二、六〇〇			一、六、〇〇〇
同九年(十月迄)		五八三	四八、二二九	三三	九五八			五、四、五〇〇

五 帽子國別輸入表 (大正八年)

國別	種別	フェルト製帽子		フェルト製帽體		其他ノ帽子及帽體	
		數量	價額	數量	價額	數量	價額
英吉利		六四七	四八、〇	九六	二、六		
伊太利		六六二	四				
北米合衆		二六四	一九				
支那		七三九	五四	九六	二、六		
計							

一 最近ノ狀況

(一) フェルト製帽業

(イ) 生産並輸出入狀況

昨年ヨリ本年一、二月ニ亘リテハ、各種帽子業ハ頗ル活況ヲ呈シ、内外ノ注文ニ追ハレタル状態ナリシカ、三、四月頃ヨリ金融梗塞ニヨリ抄カラス打撃ヲ蒙リ、注文モ例年ノ三、四割ヲ出テサルカ如キヲ以テ既ニ生産制限ヲナセルモノモアリ、即チ某會社ノ如キハ十時間就業ヲ八時間ニ短縮シ、二回ノ休日ヲ毎日曜ニ改メ、賃銀ヲ二割減シ生産ヲ約七割トシ、事業縮少ヲ畫シテ將來ノ危険緩和ニ備ヘタレトモ、一般ニ本業ハ未タ數量過剩ヲ示セルカ如キ事實ハ認め得ラレス、主要工場ハ東京帽子株式會社、帝國製帽株式會社、株式合資濱谷帽子會社等ニシテ、右三會社ニテ全國製産高ノ約七割以上ニ及ヒ、一日三百三十打ヲ製造ス。

原料、羊毛及兔毛ハ濠洲ヨリ輸入シ、「ノイル」ハ内地各原料問屋ノ手ヲ經テ製造業者ニ至ル、價格ハ大戰以來非常ナル騰貴ヲ示シ、其ノ市價(一封度ニ付)ノ變動大凡左ノ如シ。

戰前	大正七年	大正八年	大正九年	現在(九年十月)
羊毛 自〇、四〇〇 至〇、五〇〇	自一、二〇〇 至一、三〇〇	自一、八〇〇 至一、九〇〇	一一、五〇	二、〇〇
兔毛 三、五〇	一三、〇〇内外	自一八、〇〇〇 至一九、〇〇〇	二二、五〇	一八、五〇位



「ノイル」 〇、二五

〇、六〇

自〇、七〇

二一、三〇

〇、六五位

輸出ハ大正八年度ニ於テハ、全生産高ノ三割以上ニ及ヒシカ、本年ハ爲替關係其他ノ事情ニヨリ、二割ヲ出テサルヘク、販路ハ南洋、印度、暹羅、北支那、上海等ナリ。

斯業ハ機械ノ外、手工ニ俟ツ所多キヲ以テ、職工ノ熟練不熟練ハ直ニ製品ノ良否ニ關係ス、而シテ好況時期ニ於テハ、熟練工ヲ得難カリシカ本年下半年期ニ入りテヨリハ職工ノ動搖少ク、製品ノ品質ハ多少改善セララルニ至レリ、就業時間ハ一般ニ短縮セララルモ賃銀ハ好況時ト大差ナク、男工平均二圓二、三十錢女工ハ平均八十五錢位ナリ。

(ロ) 外國品トノ比較

海外市場ニ於テ伊國及奧國品ト相當競争状態ニアルカ如キモ、一般ニ技術ハ外國品ニ比シテ劣ル所多ク、殊ニ仕上ニ於テ然リトス、サレハ價格ノ如キ我製品ノ「打」八十圓ニ對シ、伊國「ボルサリ」會社製ノモノハ百六十圓ヲ唱ヘ居レル状態ナレハ、尙技術ノ研磨ヲ重ヌルニ非サレハ、彼ニ匹敵シ難カルヘキカ。

(ハ) 市 價

市價ハ問屋卸價格ノ一割弱ノ上値ヲ呈シ、其ノ變動ハ最近ニアリテハ二割内外ノ處ニアリ、本年十月ニケル平均市價左ノ如シ。

「ウール」製内地向一個ニ付

二圓五十錢

「ファー」製 同

六圓八十錢

「ウール」製 同

二圓内外

「ファー」製 同

六圓五十錢位

帽子業ハ事業ノ性質上、直取引ヲ行フハ頗ル困難ナルコトニ屬シ、從テ多クノ内地商人又ハ貿易商ノ手ヲ經テ販賣セラルル結果、此等ノ間ニ於テ、在來利益ヲ貧リ過キタル非難多キヲ以テ、製造業者中、成ルヘク消費者トノ接近ヲ計ル爲、種々ノ計劃ヲ企テ或ハ某大商店ニ特約シテ、消費者ニ直接販賣セシメ、良好ナル結果ヲ收メタルモノアリ。

(ニ) 荷 造

製品ハ防水紙ニ包ミ、ボール函ニ詰メタルモノ二十打、二十五打乃至四十打ヲ一函トシ、八分木板ニテ固ク荷造スルヲ以テ、汚損等ニ依ル非難ヲ受クルコト少シ。

(ホ) 運 輸

南米及南亞ハ、共ニ販路トシテ囑目スヘキモノナレトモ、「ノイル」不便ナル爲、目下ハ困難ナル状態ニアリ。

(二) 模造バナナ製造業



内地ニ於ケル主ナル生産地ハ沖繩縣下ニシテ、全國生産高ノ七、八割ヲ占メ、東京、岡山、大阪、兵庫ノ各府縣之ニ次ク、兵庫、岡山地方ニ於テハ本年二月頃ヨリ貨物ノ停滯ヲ見ルニ至リタルモ、七月迄ハ相當ノ輸出モアリ、從テ價格モ八月迄ハ持合状態ニアリシカ、九月ニ入りテヨリ海外ノ注文殆ト絶ヘ、事業休止ノ已ムナキニ至レリ、僅ニ一部工場カ熟練工引止策ノ爲、注文ヲ見越シ「ストック」トシテ英國向婦人帽ノ製造ニ從事スレトモ、價格ハ一個ニ付二十錢値下ヲナシタル模様ニテ、尙來春ニ入りテモ注文ナキ時ハ、愈々工賃ノ値下ヲ協定シ、製品ノ二割減價ヲ斷行セムトスルカ如シ。

英米國向ハ寸法ニ最モ重キヲ置クモノニシテ、神戸岡山地方ノ優良品ヲ向ケ、沖繩方面ノモノハ工賃安ク、大工場ノモノヲ除ク外、品質亦比較的粗悪ナルヲ以テ、内地、南洋印度向ノモノ多シ。

原料ハ静岡縣、岡山縣、高知縣其他各地ヨリ購入シ、價格ハ紙質ト塗料ニ依リ一定セサルモ、一個分二十錢乃至一圓ニテ昨年度ニ比シ、平均上物ニテ二十錢高ヲ唱ヘ下物ハ大差ナシ、使用數量ハ昨年ニ比シ約半數量ト見ルヘシ。

本業ハ主トシテ農家ノ副業ニシテ全然手編ニ屬シ、工賃ハ出來高拂トシ、輸出向婦人帽ニテ一個ニ付三日乃至四日ヲ要ス、本年十月岡山地方ニ於ケル調査ニ依レハ其ノ收入、普通熟練工ハ一圓二十錢乃至一圓七十錢、養成工ハ八十錢位ニテ沖繩地方ハ約二割内外廉シ。

以上ノ如ク原料及工賃比較的高價ニシテ、事業ノ維持困難ナレハ同業組合員ノ如キ、大正八年ニ比

シ、兵庫縣下四十六名ハ十六名ニ、岡山縣下二百四十五名ハ百名ニ、孰レモ減少セル状態ナルヲ以テ生産數量モ本年度ハ昨年度ノ約半數ヲ出テス。

### 第七 紐釦製造業

一 紐釦製造業ノ趨勢

(一) 生産高

年次	種別	金屬製	貝殼製	甲角製其他	計
大正三年		五四九,九〇八	三二七,四七六	一,一九四,四五五	五,〇二七,八四九
同 四年		四二五,四三九	一,五五〇,八三三	一,七〇二,三五九	二,一四六,五三七
同 五年		六八七,三七三	八〇〇,八七三	八五,一八七	九,五九九,三三三
同 六年		三三三,九四九	二,六八〇,三四三	二,二五,〇〇〇	三,二四九,五九二
同 七年		一一,四九二,〇〇〇	一八,九五三,一四〇	一,二二五,五九〇	三,一四七,九三〇
同 八年		一,三六〇,五七八	四,八四七,四七九	四四〇,二二九	六,六四八,二八六
同 九年		六九五,二八〇	一九二,五一八	三,八五九,八八九	三,〇〇六,四五八
同 十年		二,二二二,九〇〇	六,四六四,四八六	一,二五四,八八三	九,九四二,二八九
同 十一年		四七,七四七	三,九四九,七七八	三,一四七,四四六	三,一八七,九六九
同 十二年		一,六八七,一八六	一〇,〇五五,三三九	一,三三四,〇三六	一三,〇六五,五六一
同 十三年		一,九四七,三七七	一,九五〇,三七九	五,四三〇,九九八	二六,八八三,六六四
同 十四年		一,三〇三,五一〇	一一,八七一,三五三	二〇,九一八,三六六	一五,二六七,六九九

製造戸數 一、四二九  
職工數 九、二五〇







年次	種別	輸入高		其他		計
		數量	價額	數量	價額	
同大正五年	アイボリーナット	四四八〇	一五八四五	一	一一二	二七〇二六
同大正四年	アイボリーナット	三七七八	二三四七	一	一三九九	二六四七六
同大正三年	アイボリーナット	三〇〇〇	一〇〇〇	一	一〇〇〇	二七〇二六
同大正二年	アイボリーナット	二〇〇〇	六〇〇	一	二〇〇	二七〇二六
同大正一年	アイボリーナット	一〇〇〇	三〇〇	一	一〇〇	二七〇二六
同大正五年	其他	一三〇〇〇	四〇〇〇	一	一〇〇〇	二七〇二六
同大正四年	其他	一〇〇〇	三〇〇	一	一〇〇	二七〇二六
同大正三年	其他	五〇〇	一五〇	一	五〇	二七〇二六
同大正二年	其他	二〇〇	六〇	一	二〇	二七〇二六
同大正一年	其他	一〇〇	三〇	一	一〇	二七〇二六
同大正五年	計	一三〇〇〇	四〇〇〇	一	一〇〇〇	二七〇二六
同大正四年	計	一〇〇〇	三〇〇	一	一〇〇	二七〇二六
同大正三年	計	五〇〇	一五〇	一	五〇	二七〇二六
同大正二年	計	二〇〇	六〇	一	二〇	二七〇二六
同大正一年	計	一〇〇	三〇	一	一〇	二七〇二六

四八

同六年	同七年	同八年	同九年(九月迄)
?	?	?	?
?	?	?	?
?	?	?	?
一八六四〇	二七〇〇八	四五三〇三	三四一五四

紐釦國別輸入表 (大正八年)

北米合衆國	伊太利	佛蘭西	英吉利
四五〇〇〇	一七〇〇〇	一六〇〇〇	一〇〇〇〇
一七〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇

二 最近ノ狀況

紐釦ハ原料、形態、色彩及大サ等ニ依リテ其ノ種類無數ナル故、各別ニ其ノ狀況ヲ調査スルコト至難ナルヲ以テ左ニ主要製品タル金屬製釦、貝釦、「アイボリーナット」製釦ノ内、主要ナルモノニ就テ最近ノ狀況ヲ述ヘントス。

(一) 生産及輸出狀況  
 金屬製釦ノ生産地ハ東京及大阪ノ二府ニシテ、主要製品タル「プレス」釦、押釦等ハ戦前(大正二



年)ニハ其ノ輸出七萬餘圓ニ過キサリシモ歐洲戰爭ノ影響ニ依リテ著シク發展シ、大正六年ニ於テハ三百三十六萬餘圓(內露領亞細亞九十萬圓、英吉利五十萬圓、支那五十八萬餘圓)ニ達セシモ平和來ト共ニ漸次不況ニ陥リ、大正七年ニハ二百五十萬餘圓ニ減シ、大正八年ニ及ンテハ更ニ六十四萬餘圓ニ減少スルニ至レリ、而シテ大正九年四月以降ニ於テハ財界不況ノ影響ヲ受ケテ一層悲境ニ陥リ、特ニ「プレス」卸ニ於テハ主產地タル東京、大阪ニ於テハ殆ト廢業ノ状態トナリ、今後恢復ノ見込ナキカ如シ、僅ニ押卸ハ洋傘用、貨幣入レ用等ノ内地向製品ノ製造ニ從事シツツアリ。

貝卸ノ主要製品ハ高瀬貝卸ニシテ、其ノ主產地ハ大阪、兵庫、奈良(主トシテ繰リ生地ヲ製出ス)香川和歌山等ノ府縣ニシテ戰前(大正二年)ニ於テハ其ノ輸出二百九十六萬餘圓ニ過キサリシカ、戰爭ノ影響ヲ受ケテ大正四年頃ヨリ漸次増加シ、即チ同年ニハ三百五十八萬餘圓(英吉利、百四十四萬餘圓、英領印度五十四萬餘圓、北米合衆國四十六萬餘圓)ニ達シ、而モ其ノ加工ハ本邦人ノ家内工業ニ適シタルハ益々發展シテ、平和來ニ及ヒテモ其ノ好況ヲ持續シ、大正八年ニ及ヒテハ其ノ輸出額八百四十五萬餘圓ニ達シ、世界ノ市場ヲ獨占スルノ觀ヲ呈シ、大正九年一、二月頃ハ實ニ斯業ノ全盛時代ナリシモ、大正九年三月以降財界ノ變動ニ遭逢シ、一面輸出羽二重ノ不況(高瀬貝卸ハ歐米婦人ノ寢卷ノ附屬品トシテ使用セラレ其ノ需要最多シ然ルニ羽二重ノ不況ノ爲寢卷ノ需要減少シ從テ卸ノ需要減少シタルナリ)ノ爲其ノ需要減少シ且海外商談ノ取消等類々トシテ來リシ故、現時ニ於テハ各生産地殆

ト休業状態トナリ、唯大阪、兵庫等ノ府縣ニ於テ一、二ノ「ストック」品ノ製造ニ從事スルモノアルニ過キス。

「アイボリナット」卸ノ主產地ハ神奈川、東京等ノ府縣ニシテ殆ト内地向ノミヲ製造セシモ、大正八年頃ヨリ英吉利、濠洲、南米、北米合衆國等ニ多少ノ輸出ヲ見ルニ至リ、稍々海外ノ發展ノ兆ヲ見シモ財界不況ノ影響ヲ受ケテ其ノ目的ヲ達スルヲ得ス、現時ニ於テハ殆ト内地向製品ヲ製造シツツアル故斯業ハ他ノ卸業ニ比シ財界ノ影響大ナラス。

(二) 市 價 (大正九年十月現在)

高瀬貝卸(マース當リ)	六・五〇	(大正八年十二月ノ最高時代ニハ一八・五〇)
裏 穴(十四ライン)	七・〇〇	(大正八年十二月ノ最高時代ニハ一八・〇〇)
平 物(十六ライン)	七・〇〇	(大正八年十二月ノ最高時代ニハ一八・〇〇)
金 屬 卸		
プレス卸(哥當リ)	但シ眞鍮ニ銀鍍金セルモノ	
大 (一〇ミリ)	〇・六〇	
中 (八、五ミリ)	〇・五四	
小 (七、ミリ)	〇・四八	



- 押 釦(哥當リ)
- 二 番(洋傘用) 一・一〇
- 三 番(貨幣入、袋物用) 一・二五
- 六 番(手袋用) 二・一〇

以上ハ大正八年末ノ全盛時代ヨリ一割高シ

アイボリナツト釦(南米産原料ヲ用ヒシモノ)

- 二ニライン 二・〇〇
- 二二三" 二・一〇
- 二三〇" 三・〇〇
- 三二" 三・八〇
- 三四" 四・五〇
- 三六" 四・八〇
- 四〇" 七・二〇
- 四二" 八・六〇
- 四五" 一・一〇〇

(三) 外國品トノ比較

貝 釦

本邦製貝釦ハ、外國品ニ比シテ價格低廉ナリト雖、品質一般ニ劣等ナルヲ免レス、其ノ主ナル點ハ  
 (一)形態ノ正シカラサルモノ、(二)瑕斑アルモノ、(三)光澤ノ悪シキモノ、(四)著色ノ鮮麗ナラサル  
 ニアリ、(一)(二)ノ欠點ハ粗製濫造ノ結果ニ因ルモノニシテ、當業者ノ反省ト誠意トニ依リテ、矯正  
 スルコトヲ得ヘキモ、(三)(四)ノ點ニ至リテハ研磨法及著色法ニ就キ、當業者カ未タ化學的並機械的  
 加工法ノ研究足ラサル結果ナレハ、此ノ點ニ就キ一層ノ努力ヲ要スヘシ、但シ奈良縣ニ於テハ之ニ關  
 スル研究ノ見ルヘキモノアルニ至レリ。

金 屬 釦

本邦製「プレス」釦ハ、外國品ニ比シ其ノ價格低廉(米國製一圓内外ナルニ本邦製五十錢内外ナリ)ナ  
 ルモ品質著シク劣等ナリ、其ノ主ナル點ハ發條ノ軟弱ナルニアリ、本來發條ノ原料ハ磷銅ヲ使用スヘ  
 キモノナルニ、我當業者ハ眞鍮ヲ使用セリ、故ニ其ノ製品ハ使用ニ耐ヘサルモノ多ク、其ノ甚シキニ  
 至リテハ、不用品カ全量ノ約四割ヲ占ムルモノアリシト云フ、斯カル劣等ナル品質ニ於テハ、到底外  
 國品ト對抗スルコト能ハス、殊ニ獨逸品ノ市場ニ現ハルルニ至ラハ、本邦製品ノ強敵タルヘシ。



(四) 荷造 包裝

貝又ハ「アイボリナット」製釘

普通三打（印度向ハ二打付ケ）ヲ「ボール」紙ニ綿絲ニテ縫付ケタルモノヲ、約六哥位（大形ノモノハ三哥位）西洋紙ニテ包ミ、之ヲ更ニ百「マース」位防水紙ニ包ミタルモノヲ約二十才ノ木製外箱ニ入ル。

金 屬 釘

製品ノ大小ニ依リテ差異アルモ、概シテ一哥乃至五哥ヲ「ボール」箱ニ入レ更ニ之ヲ約二十才ノ木製外箱ニ入ル。

(五) 主要工場營業成績

會 社 名 攝津釘株式會社

資 本 金 五十萬圓

工場所在地 神戸市三番町一ノ二

本工場ハ大正四年ノ設立ニシテ、電動力一五馬力、使用機械六〇基（自働「ベルト」研磨機四、面削機械二五、一方面削二五、穿孔機六）、使用職工約百五十名、指導技術者五名ヲ以テ高瀬貝裏穴釘ノ製造ヲ營ミ成績見ルヘキモノアリ、大正八年後半期ニ於テハ一割ノ利益配當ヲ爲セシモ大正九年四月、

以降財界不況ノ影響ヲ受ケ生産調節ヲ圖リ現時（大正九年十月）ニ於テハ職工九十三名ニ減シ（但シ特ニ職工ヲ解雇セスシテ辭職者ヲ補缺セサリシナリ）一日ノ就業時間ヲ十時間（從來十二時間）、休日ヲ月四回（從來月二回）トシ現時ハ「ストック」ノ製造ニ從事シツツアリ。

三 結 論

我紐釘製造業ハ、歐洲戰爭ノ影響ニ依リ勃興シタルモノニシテ、而モ斯業ハ本邦人ノ特性タル手工ニ適シタル故、著シキ海外發展ヲ爲シ、世界市場ヨリ獨逸品ヲ驅逐シテ殆ト獨占スルノ狀況ニ至レリ然ルニ、今ヤ財界不況ノ影響ニ依リ各工場ハ殆ト休業シ、職工ハ過半離散セルカ如シ、一方獨逸ニ於テハ産業ノ恢復意外ニ速カナルモノノ如ク、又米國ニ於テハ、我貝釘ニ對シ關稅稅率引上ケノ問題アルカ如シ、海外ノ事情斯ノ如クナルニ於テハ我紐釘界ノ將來ハ樂觀ヲ設ササルモノト認ム。

斯業改良ノ方策トシテハ、（一）機械ノ使用、（二）職工教育ニ付攻究ヲ必要トス。

（一）本邦ニ於ケル紐釘製造機械ハ、其ノ幼稚ナルコト殆ト手工道具ニ類シ、先進國ノ嶄新ナル機械ハ本邦ニ於テ殆ト其ノ影ヲタニ認メス（從來支那ニ於テモ其ノ感ヲ同シウセシモ最近江蘇省立水產學校ニ於テハ既ニ嶄新ナル外國機械ヲ設置セルカ如シ）斯カル狀態ニアリテハ、生産能率ノ増進ト、製品ノ改良トヲ圖ル途ニアラサルヲ以テ、嶄新ナル製造機械ノ利用ニ努ムルコトヲ要ス。

（二）我國ノ斯業ハ其ノ技術幼稚ニシテ著色及研磨法等ノ拙劣ナルノミナラス、原料ノ不經濟的使用



等ニ就テハ看過シ得サルモノアリ、故ニ此等ノ缺點ヲ改善スルコトヲ必要トス、現ニ支那ニ於テモ既ニ江蘇省ノ省立水産學校内ニ貝卸職工科ヲ新設シ、嶄新機械其ノ他諸般ノ設備ヲナシ各種貝卸ノ製造方法ノ教授ヲ開始セルモノノ如シ、我國ニ於テモ斯業職工教育ノ機關設置ノ必要アルモノト認ム。

(三) 米國政府カ我貝卸ニ對シ、關稅稅率改正ノ議ハ大正八年中ヨリ問題トナリ、上院財政委員會ニ於テモ何等ノ異議ナク通過シ、大正九年三月ニ於テハ其ノ旨上院ニ報告セラレタリ、關稅ノ内容ハ詳ナラサルモ、我製品ニ對シ一哥ニ付「ライン」毎ニ一仙半ノ關稅竝一割五分ノ從價稅ヲ課セントスルカ如シ、若シ此ノ案カ實施セラルルニ至ラハ、我貝卸ノ米國輸出ニ對スル影響蓋シ甚大ナルモノアルヘシ。

註、米國ノ貝卸生産高ハ一千萬弗乃至千二百萬弗ニシテ日本ヨリノ輸入ハ僅ニ二百四十萬圓ナリ。

第八 竹製品製造業

(一) 生産高

大正三年	五、〇二四、七〇二
同 四年	三、四六一、一六五
同 五年	三、八二八、八一八

(二) 輸出

同 六年	四、八九〇、八一九
同 七年	六、九五〇、〇三七
(イ) 製造戸數	三八、四五五
(ロ) 職工數	計 五五、七八六
	男 四四、四七三
	女 二、三一三

(大正七年末現在)

年次	種別	竹籠	竹籬	竹行季及靴	煙草用吸口及煙管	其ノ他	金額計
大正四年		七九二、五〇九	一六八、八〇八	四六九、一〇二	一〇二、八七二	一三九、九三二	一、三九一、六六七
同 五年		一、〇六九、四一五	一七五、七〇一	五三一、九六三	一〇五、四〇三	一七六、〇三三	一、八七六、五六四
同 六年		六五三、二九九	一四四、二八二	二七一、九四七	二二、〇八一	二〇五、二三三	一、三三七、〇五六
同 七年		三二九、九三二	八八、六八四	一六九、九一五	二八〇、三七二	二四二、二七六	一、〇五〇、一九八
同 八年		七〇六、五五九	九五、三三五	二二七、三四五	三九四、八〇〇	四八、九一八	一、九六二、八五九
同 九年(九月迄)		一、四三七、三六四	一〇四、八七〇	三七五、六三〇	四九六、六一五	五八、五四二	二、九四四、二七四

竹製品輸出國別表 (大正八年)



國別	竹籠		竹簾		竹行季及靴		煙草用吸口及煙管		其ノ他竹製品	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
支那		七〇		五	一〇	三三		二	四	一九
關東		二〇		三	一	三		一	一	四
香港		二		三		一		一	一	一
英領印度		一		二		一		一	一	一
海峽殖民地		一		二		一		一	一	一
蘭領印度		八		三		三		一	一	一
露領亞細亞		一		三		三		一	一	一
比領賓細島		三		五		四		一	一	一
英領吉島		六		三		八		一	一	一
佛蘭西		四		五		七		一	一	一
白蘭地		二〇		三		九		一	一	一
瑞典		四		六		一〇		一	一	一
和蘭		三		四		六		一	一	一
瑞耳		七		三		五		一	一	一
丁合衆		三		二		三		一	一	一
北米		四		三		三		一	一	一
加拿大		二		七		五		一	一	一
計		二九		七		六		八		二

國別	竹籠		竹簾		竹行季及靴		煙草用吸口及煙管		其ノ他竹製品	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
秘魯		一		三		一		一		一
智利		一		三		一		一		一
亞爾然		九		二		二		一		一
埃及		三		二		二		一		一
喜望峯殖民地及ナタル		二		二		二		一		一
濠洲		六		九		三		一		一
新西蘭		八		二		二		一		一
布哇		四		二		二		一		一
伯刺西		一		二		二		一		一
佛領印度		七		九		三		一		一
計		七〇		九		二		三		四

(一) 生産及輸出狀況 一 最近ノ狀況

竹製品ノ生産ハ全國ニ亘ルモ、其ノ主産地ハ京都、大阪、大分、兵庫、静岡、宮城等ノ府縣ニシテ、其ノ製品ハ行季、靴、笥、籠、簾等ヲ主トシ、其ノ需要ハ大部分内地向トス、斯業ハ原料竹材ノ内地ニ豊富ナルト、且ツ其ノ技術ノ本邦人ノ特性タル手工ニ適シタルトニヨリ、工藝品(文人籠ノ如キ)及日用品(笥ノ如キ)共本邦特産品トナレリ、而シテ工藝品ハ概シテ專業ニシテ、日用品ハ多ク農家



ノ副業ニ營マルモノトス、從テ其ノ製産ハ季節製産ニシテ、例年三月ヨリ八月頃迄ハ繁忙期ナリ、然ルニ大正九年財界ノ激變ノ爲、四月以降不況ヲ來タシ、十月頃ヨリ休業スルモノ續出スルニ至レリ、輸出品中其ノ主ナルモノハ、文人籠、屑籠(主トシテ京都、兵庫、愛知ノ府縣ニ産ス)、「パイプ」(静岡縣、高知縣)、電燈笠(京都府、静岡縣)、「バスケット」(大阪府、兵庫縣)、竹行李(山梨縣、長野縣ヲ主トシ、其ノ他静岡ノ千筋細工、「ステツキ」、葛屋、三重縣、廣島縣等ノ「ナイフ」「フオーク」等トス、而シテ其ノ輸出ハ戰時ノ好時期ニ在リテモ他工藝品ノ如キ發展ヲ見ス、常ニ百萬圓臺ヲ一進一退シツツアリシカ、大正八年末ヨリ海外ノ註文増加シタルヲ以テ、四月以降不況ヲ來セルモ大正九年一月以降九月ニ至ル輸出高ハ二百九十六萬餘圓ニ達セリ。

(二) 市價 (大正九年十月現在)

篠竹製磨キ行李 (一組當リ但シ三箇ヲ以テ一組トス)

二尺五寸	二・三〇
二尺二寸	二・〇〇
二尺	一・五〇
一尺七寸	一・二〇
一尺五寸	一・〇〇

三 結 論

竹製品ハ將來、内地向需要ニ關シテハ特ニ考慮スヘキ要ナキモ、輸出ニ關シテハ研究ノ餘地アルモノト認ム。

從來竹製品ノ輸出ノ不振ナリシハ其ノ原因種々アルヘキモ、其ノ主要ナル點ハ(一)價格ニ比シ容積ノ大ナルコト(二)需要ノ範圍ノ小ナルコト等ト認ム、蓋シ其ノ容積ノ大ナルカ爲ニハ荷造、包裝、運送上ノ不便少カラス、從テ比較的多額ノ運送費ヲ要シ、製品價格ノ高價ヲ來スニ至ル、又竹製品ハ本邦特種ノ工藝品ニシテ、歐米人ノ之ヲ嗜好スルハ實用的意味ニアラスシテ、寧ロ一種ノ好奇心ニ基クモノナレハ、其ノ需要ノ範圍一般的ノモノニアラスシテ一部分ニ限ラルルノ觀アリ、故ニ將來斯業ノ海外發展ヲ圖ラントセハ叙上ノ點ニ就キ一層ノ研究努力ヲ要ス。

第九 皮革製品製造業

(一) 生産 高

大正三年	不明
大正四年	一四、七〇五、四九〇 <sup>円</sup>
大正五年	一四、四一八、七二〇



- 大正六年 一一、七三三、三三一
- 大正七年 一三、〇八九、七六四
- 1 製造戶數(大正七年) 三、二〇七
- 2 職工數 男八、四〇九人 女六、七九人 共一五、二〇八人
- 3 會社數 二四
- 4 會社資本額(資本及拂込濟額)七、六二九、〇〇〇圓 (內拂込五、八五八、二六五圓)

(二) 皮革製品輸出表

種類	年次	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年 (十月迄)
靴		一四一、六四〇	一四六、二七六	八五、〇六八	九八、四七一	六八、〇四五	五八、一五四	一〇三、三九七
靴、提囊、旅櫃及佩袋類		九八、八一五	八五、九七六	三五、二四八	四七、〇七四	四〇、六七九	四〇、六七九	六三、三六一
貨幣			二三四、二八八	六七、六一七	七四、二一八	一、八〇、一〇八	一、六六、一〇〇	一、四四、九六一
貨幣			三三、九八八	五、一四六	三九、〇六四	四、五、二二九	二、四、五〇〇	一、八、一五三
機械用帶		三六、八九斤	二六、九四八斤	七〇、六九四	六四、一四二	八八、二二五	七、一、〇〇〇	五〇、四、二〇〇
其他		七、一〇三	四、八一五	二、四八七	九、九六七	一、四、三三三	一、三、七一一	八、二、四九九
計		二四一、六四〇	二四六、二七六	一四一、〇六八	一四七、〇七四	一四一、〇六八	一三三、〇〇〇	一三三、〇〇〇

(三) 皮革製品國別輸出表(大正八年)

國別	靴	靴、提囊、旅櫃及佩袋類	貨幣	機械用帶	其他
支那	五、一九九	二、九〇〇	二、五〇〇	五、三三三	六、〇〇〇
關東	二、三三〇	一、四九〇	二、五〇〇	三、三三三	六、〇〇〇
香港	八六	二	四二	三	九
英領印度	一三七	九	二六二	三	三五
海峽殖民地	七六	二七	一五三	一	〇
蘭領印度	四七	二	一五三	一	〇
佛領印度	四七	二	一五三	一	〇
露領亞細亞	三、七九〇	三、四三八	一、〇二一	二、九七	二、七
比律賓諸島	八五	三	九〇	一	二
暹羅			一八	三	二
英領吉羅			四一	七	二
佛蘭西			四一	七	二
北米			一	三	二
加拿大	一〇〇	一	二五	一	二
智利			四	一	二
伯刺西			四	一	二



(四) 皮革製品輸入表

年度	種類	數量	機械用帶及管	帽子用裏革	其他ノ革製品	計
同大正五年	同	二,一〇九	四,九七四	一,七七三	一,一五〇	二,八〇七
同大正四年	同	二,一〇九	四,九七四	一,七七三	一,一五〇	二,八〇七
同大正三年	同	二,一〇九	四,九七四	一,七七三	一,一五〇	二,八〇七
同大正二年	同	二,一〇九	四,九七四	一,七七三	一,一五〇	二,八〇七
同大正一年	同	二,一〇九	四,九七四	一,七七三	一,一五〇	二,八〇七
同大正五年	同	二,一〇九	四,九七四	一,七七三	一,一五〇	二,八〇七
同大正四年	同	二,一〇九	四,九七四	一,七七三	一,一五〇	二,八〇七
同大正三年	同	二,一〇九	四,九七四	一,七七三	一,一五〇	二,八〇七
同大正二年	同	二,一〇九	四,九七四	一,七七三	一,一五〇	二,八〇七
同大正一年	同	二,一〇九	四,九七四	一,七七三	一,一五〇	二,八〇七

六四

(五) 革製品國別輸入表 (大正八年)

國別	種類	數量	機械用帶及管	帽子用裏革	其他ノ革製品	計
同大正九年	同	一,八三三	七,二二八	三,七五三	一,六三六	三,八〇九
同大正八年	同	一,八三三	七,二二八	三,七五三	一,六三六	三,八〇九
同大正七年	同	一,八三三	七,二二八	三,七五三	一,六三六	三,八〇九
同大正六年	同	一,八三三	七,二二八	三,七五三	一,六三六	三,八〇九
同大正五年	同	一,八三三	七,二二八	三,七五三	一,六三六	三,八〇九
同大正四年	同	一,八三三	七,二二八	三,七五三	一,六三六	三,八〇九
同大正三年	同	一,八三三	七,二二八	三,七五三	一,六三六	三,八〇九
同大正二年	同	一,八三三	七,二二八	三,七五三	一,六三六	三,八〇九
同大正一年	同	一,八三三	七,二二八	三,七五三	一,六三六	三,八〇九
同大正五年	同	一,八三三	七,二二八	三,七五三	一,六三六	三,八〇九
同大正四年	同	一,八三三	七,二二八	三,七五三	一,六三六	三,八〇九
同大正三年	同	一,八三三	七,二二八	三,七五三	一,六三六	三,八〇九
同大正二年	同	一,八三三	七,二二八	三,七五三	一,六三六	三,八〇九
同大正一年	同	一,八三三	七,二二八	三,七五三	一,六三六	三,八〇九

一 皮革製品業最近ノ狀況

國別	種類	數量	機械用帶及管	帽子用裏革	其他ノ革製品	計
同大正九年	同	一,八三三	七,二二八	三,七五三	一,六三六	三,八〇九
同大正八年	同	一,八三三	七,二二八	三,七五三	一,六三六	三,八〇九
同大正七年	同	一,八三三	七,二二八	三,七五三	一,六三六	三,八〇九
同大正六年	同	一,八三三	七,二二八	三,七五三	一,六三六	三,八〇九
同大正五年	同	一,八三三	七,二二八	三,七五三	一,六三六	三,八〇九
同大正四年	同	一,八三三	七,二二八	三,七五三	一,六三六	三,八〇九
同大正三年	同	一,八三三	七,二二八	三,七五三	一,六三六	三,八〇九
同大正二年	同	一,八三三	七,二二八	三,七五三	一,六三六	三,八〇九
同大正一年	同	一,八三三	七,二二八	三,七五三	一,六三六	三,八〇九
同大正五年	同	一,八三三	七,二二八	三,七五三	一,六三六	三,八〇九
同大正四年	同	一,八三三	七,二二八	三,七五三	一,六三六	三,八〇九
同大正三年	同	一,八三三	七,二二八	三,七五三	一,六三六	三,八〇九
同大正二年	同	一,八三三	七,二二八	三,七五三	一,六三六	三,八〇九
同大正一年	同	一,八三三	七,二二八	三,七五三	一,六三六	三,八〇九

靴其他袋ノ製造業ハ逐年發達シ來リシカ、本年財界不況ノ影響ヲ受ケ、價格ハ一般ニ一、二月ノ最高期ニ比シ、大物ニテ三割、小物ニテ二割方下落シ、生産數量ハ昨年ヨリモ二割、輸出モ亦一、三割減退スル見込ナリト云フ。

六五



販路ハ國內各地ノ外、支那、印度、海峽殖民地、蘭領印度、露西亞等ニシテ、近來南洋方面頓ニ減退シタル模様ナリ、原料鞣革ハ主トシテ内地製ヲ使用シ、製品モ見込取引ヲ行フカ如キコトナキ爲、大ナル損害ハ蒙ラサレトモ、外國爲替相場變動ノ爲輸出ハ頗ル困難ナリ。

調革ノ主ナル製造所ハ、合資會社新田帶革製造所、日本皮革株式會社、三菱製革株式會社ニシテ、主トシテ、内地工場用調帶ヲ供給スレトモ、一般纖維、機械工業ノ萎縮ト共ニ本業モ亦不況ヲ免レス。本年十月頃ニ至リ原料ハ一、二月ノ最高期ニ比シテ、三割五分、製品ニ於テ又三割方ノ下落ヲナセリ。

販路ハ内地、大阪、東京、名古屋、北九州方面多ク、海外ハ支那、關東州、露領亞細亞等ナレトモ、輸出ハ生産數量ノ一割ヲ出テス。

次ニ製靴業ハ陸海軍用長靴及編上靴、陸軍營內靴、輸出向市場靴、露西亞向長靴等ヲ主トシ、内地市場向機械靴モ亦相當ニ製造セラル。

休戰以來、露國向軍靴ノ注文杜絶セル爲多少ノ打撃ヲ蒙リシモ、我軍靴ノ製造ニ從事セル工場ニ在リテハ、本年ノ財界不況ニ依リ殆ト影響ヲ受ケス、其ノ他市場靴ト雖甚シキ不況ニハ陥ラス、却テ一般ニ靴ノ原料ハ、二割内外ノ下落ヲナシタルニモ拘ラス、工費暴騰ノ爲、市場靴ノ市價ハ比較的高値ヲ示セリ。

原料ニ於テハ陸軍々靴ハ甲、底共ニ内地品ヲ用ヒ、海軍々靴ハ底革ノミ外國品ヲ仰キ其ノ他一般市場向ハ注文ニ應ジ、内外ノ底革ヲ使用ス、外國品ハ大抵米國及濠洲ヨリ輸入スレトモ、後者ハ品質粗惡ニシテ、支那靴ノ如キハ廉價品用ニ供セラル。

價格ハ本年十月ノ調査ニヨレハ、底革每百斤百三、四十圓乃至百七、八十圓、甲皮ハ一坪ニ付「ボックス」ニテ一圓二十錢「キット」ニテ外國品二圓五十錢、内地品一圓三十錢位ナリ。

製作法ハ陸軍々靴ハ全然機械縫ニ屬シ、海軍靴ハ手縫多ク、其ノ他一般内外市場向ハ、注文ニ應ジ機械、手縫兩法ニ依ルカ如シ、而シテ市場ニ米國式機械縫靴ノ多數ニ販賣セラルルヲ見ル、工賃ハ手縫ノ約三分ノ一ヲ出テス、製品價格モ普通編上「ボックス」ニテ十三圓内外ヲ以テ提供スルコトヲ得、頗ル堅牢ニシテ且ツ獨逸式機械縫製ノ如ク修理ノ困難ナルカ如キ欠點モナク、體裁亦手縫ト異ナル所ナシト云フ。

輸出ハ本年ニ入りテヨリ非常ニ減退シ、殊ニ支那、露西亞方面ハ信用狀態不明ノ爲、取引頗ル不安定ナル狀態ナリ。

要スルニ我國皮革製品業ハ未タ小規模ニシテ、歐米諸國ニ比シ原料ノ消費數量極メテ尠ク、加工技術モ亦及ハサル所多キヲ以テ、海外市場ニ於テ常ニ彼ノ製品ニ壓倒セララルル狀態ナレハ、將來優秀ナル原料ノ自給ト相俟チテ、精巧機械ノ使用ヲ努メ以テ生産費ノ輕減ヲ圖ラサルヘカラス。



第十 セルロイド製品製造業

一 セルロイド製品製造業ノ趨勢

(一) 生産高(玩具ヲ除ク但シ農商務統計、同業組合調査ニ依ル推定)

大正四年	五、五五八、〇〇〇圓
同 五年	七、八七八、〇〇〇圓
同 六年	五、四八〇、〇〇〇圓
同 七年	九、六三六、〇〇〇圓
同 八年	一四、五二七、〇〇〇圓
1、製造戸數	二四二
2、職 工	八、六〇九名

(大正八年末現在)

(二) 輸出高(玩具及部分品トシテ輸出シタルモノヲ除ク)

但シ同業組合ノ調査竝ニ貿易年表ヲ基トシタル推定數

大正六年	一、五六七、〇〇〇圓
------	------------

輸出品ノ主ナルモノハ櫛類、腕輪(玩具第一位ニ在ルモ前記ニ調査セルヲ以テ之ヲ除ク)ニシテ其他  
 裝身具、文房具、雜貨類、洋傘把手等其ノ種類頗ル多キモ之カ輸出高ヲ品種別及國別ニ知ルヘキ統計  
 ナキヲ以テ「セルロイド」製ノ殆ト全額ヲ占ムル櫛輸出高ヲ左ニ擧ケントス。

櫛國別輸出表 (大正八年)

國別	種別	數	量	價	額
支那	東州	二	二	二四	二四
關東	州	三	三	二八	二八
香港	度	一	一	九	九
英領	印度	五	五	三七八	三七八
海峽	殖民地	一	一	一一	一一
蘭領	印度	二	二	二六	二六
佛領	印度	一	一	一六〇	一六〇
露領	細亞	一	一	四三	四三
比律賓	諸島	三	三	五六	五六
暹羅	島	五	五	五六	五六



英 吉 利	佛 蘭 西	白 蘭 義	和 蘭	瑞 典	丁 抹 國	北 米 合 衆	加 拿 大	墨 西 哥	秘 露	智 利	亞 爾 丁	伯 刺 爾	埃 及	喜 望 峯 殖 民 地 及 ナ タ ル	濠 太 刺 利	新 西 蘭	布 哇	計
六四	四				一七	一七	一	一	一	三	三	二	二	二	三	一	一	一〇七
一、二四五	八四	二	一	三	一七	九七	一四	二八	七	四三	七一	二二	一〇九	二一	五四	六	一〇	二、五七七

二 最近ニ於ケル狀況

(一) 生産及輸出狀況

本邦ニ於ケル「セルロイド」ノ主産地ハ東京、大阪ノ二府トシ、東京府ハ玩具、大阪府ハ櫛、刷子柄、腕輪等ヲ主ナル製品トシ、其ノ他裝身具(簪、ピン、タボ止、帶止等)文房具(萬年筆軸、ペン皿、繰出鉛筆鞘等)、雜貨類(石鹼箱、紐釦、ナイフ及レザー柄、化粧用器具等)、洋傘把手、自轉車用附屬品、醫療用器具等アリテ漸次「セルロイド」ノ應用ノ範圍擴大セラレ、製品ノ種類年々増加シ、其ノ需要ハ廣ク内外ニ及ヒ、特ニ歐洲戰爭以後ハ逐年其ノ輸出増加シ、大正八年十月頃ニハ最モ盛況時代ニ入り、然ルニ大正九年三月以降財界ノ打撃最甚シクシテ製品ノ市價暴落シ、一面ニ於テ原料「セルロイド」ハ其ノ價額低下セサル爲、加工業者ノ苦痛著シク、即チ製品ノ生産費ハ市價以上ニ昇レルヲ以テ取引行ハレス、八月以降ニ於テハ愈不況時代ニ入り、輸向製造業者ハ殆ト休業状態トナリ、僅ニ内地向製品ノミノ生産ヲ繼續シツツアルニ過キス。

「セルロイド」製品ノ輸出ハ明治三十二年頃ヨリニシテ、同年ニハ支那、朝鮮等ニ、四十一年頃ニハ印度南洋等ニ主トシテ頭飾品ノ輸出アリシモ特ニ見ルヘキモノナク、歐洲戰亂以來著シク海外發展ヲ爲シ、其ノ主要ナル製品ハ櫛及腕輪トス。

櫛ハ大正七年迄ハ、英領印度向及露領亞細亞向輸出ヲ主トセシモ、大正八年ニ入り露貨暴落ノタメ



露國向著シク減少シ、英領印度向（主トシテ男子用手梳散髮櫛其ノ他束髮櫛、鬚髯櫛モアリ）ノ賣行多ク又大正七年迄輸入ヲ制限シ居タル英米（主トシテ散髮櫛ノ一等品ニシテ束髮櫛之ニ次ク）カ八年ニ入リ、其ノ輸入制限ヲ撤廢シタル爲、同國ヘノ輸出著シク増加シ、特ニ英國向其ノ首位ヲ占ムルニ至レリ、而シテ英國ヨリ更ニ西班牙、瑞西等ヘ再輸出セルモノモ亦少カラス、腕輪ノ需要ハ南阿弗利加埃及、瓜哇、南亞米利加、支那、印度等ノ蠻地婦人ノ裝身用ニシテ其輸出逐年増加ノ傾向ヲ來タセリ、絨上ノ如ク「セルロイド」製品ノ輸出ハ大正八年ニ於テ殷盛ヲ致セルニ反シ、大正九年三月以降ノ財界不況ニヨリ其ノ輸出ヲ悲觀セシモ大正八年末ヨリ註文増加セル爲、大正九年一月ヨリ九月ニ至ル輸出額ハ約三百萬圓（推定）ニ達セル見込ナリ。

### (二) 市 價（大正九年十月現在）

大正九年十月頃ニ於テハ、男子用頭髮櫛（五號品ノ黑色ノモノニシテ一枚ノ重量五匁五分ノモノ）ノ市價ハ哥二十圓以下ニアリ、然ルニ其ノ生産費ハ約三十圓ヲ要スルモノヲ以テ取引行ハレス。

### (三) 外國品トノ比較

本邦「セルロイド」製品ノ競争品ハ獨逸品ナリトス、而シテ本邦主要品タル櫛ニ就テ其ノ劣レル點ヲ舉クレハ（一）櫛ノ齒元又ハ齒先不揃ナルモノ、（二）生地變質シ易クシテ容易ニ齒ノ缺ケ易キ等ニアリ、而シテ輸出ノ旺盛ナルニ從ヒ組製濫造ノ結果品質ノ粗惡ナルコト甚シカリシヲ以テ、當業者ハ同

業組合聯合會ヲ組織シテ、大正八年一月一日ヨリ輸出検査ヲ執行シ、爾來製品改良セラレシト雖、當業者等ハ、品質ノ程度ヲ検査ノ合格ノ限度ニ止ムルニ安ンシテ、進ンテ優良品ヲ作ルモノ少ク、其ノ品質ハ獨逸品ニ及ハサルモノアリ。

### (四) 荷 造

主要製品タル櫛ニ就テ概略ヲ述フレハ、普通品ハ大小ニ從ヒ三箇若クハ六箇ツツ板紙ニ取付ケ更ニ「ボール」箱ニ容レ上等品ハ一箇毎ニ紙包トシ一打ツツ「ボール」箱ニ容ル、其ノ他ハ凡テ薄紙ニ包ミ一打ツツ紙箱入トシテ更ニ木製外箱ニ入ル。

### 第三 結 論

本邦「セルロイド」製品ハ、粗製濫造ノ結果海外ニ於テ聲價ヲ失墜シ、將來海外貿易上ニ一大禍根ヲ遺セリ、而シテ海外ニ於テハ、戰時中下級品ノ需要多カリシニ反シ、最近ノ情報ニヨレハ高級品ノ需要増加ノ傾向ヲ來タセルヲ以テ、我製品ハ愈歡迎セラレス、一方獨逸製高級品カ歐米ニ價格低廉ニ供給セラレツツアルカ如シ、已ニ本邦主要工場ニ於テモ高級品取引ノ交渉アリテ已ニ其ノ見本ヲ發送セルモノアリ、サレハ我當業者ハ從來ノ下級品ノ製品ニ安ンセスシテ、堅實ナル優良品ノ製造ニ研究努力ヲ要ス。



第十一 洋傘製造業

(一) 生産高(東京、大阪二府)

年次	種別	絹布張	綿布張	計
大正三年	不明	不明	不明	五三七〇五九 <small>本</small>
同四年	"	"	"	五四七、三六〇
同五年	"	"	"	七六四、八三〇
同六年	"	"	"	六七〇、一三七八
同七年	一四七、五七四 <small>本</small>	五、一〇〇、二八〇 <small>円</small>	五、七〇〇、二六 <small>本</small>	七、一七六、〇〇〇
同八年	二〇六、九九〇	一〇、三三一、一五〇	五、三六七、〇〇四	七、四五六、九〇四
計				四二、六二〇、一〇五 <small>円</small>
				四六、八九二、五七
				七、七二七、三三七
				九、〇五四、七八八
				一一、〇三九、四四七
				一九、〇四〇、一三〇

(イ) 製造戸數 二四九  
 (ロ) 職工數 男 八三〇人 女 八一二人 計 一、六四二人  
 (大正八年末現在)

洋傘國別輸出表 (大正八年)

國別	種別	絹布		綿布		其他	
		數量	價額	數量	價額	數量	價額

支那	關東	香港	英領印度	海峽殖民地	蘭領印度	佛領印度	露領亞細亞	比領賓諸島	羅吉	英領西	佛蘭西	丁合衆	北米	加拿大	智西	墨西哥	秘魯	亞爾然
一七、九四一	二、三四	五、五四六	六、〇五八	四、一九二	九、一〇五	五、三八	七、〇〇	四、八三三	一、四九九			五、九	六、二					
三、二六	三、五	一、二五	一、五	一、六	一、七	一、七	一、六	一、五	一、四	一、三	一、二	一、一	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇
一、四八五	五、六	三、〇	二、四九四	二、七二	二、八七	四、六	一、二五五	二、〇	五、六	一、三	一、八	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三	一、三
五、千	二、四	九、七	八、九	八、九	七、八	七、八	五、四	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇	一、〇



年次	種別	輸出數量價額				
		絹布張	綿布張	其他	合計	計
大正四年	絹布張	二二,〇〇八	三〇,〇三〇	二九,五八四	二四九,七五三	一八八〇
同五年	絹布張	二二,五五六	二六,九八三	三三,三九二	二〇五,八〇六	一四六
同六年	絹布張	七,五八五	一四,八六九	二八,五〇七	二一五,〇八五	二八四
同七年	絹布張	一六,八九六	四九,五二四	四九,三七三	三〇五,〇三三	二八〇
同八年	絹布張	一五,七六一	四九,九七三	二六,〇三三	三八五,六五三	四一
同九年(九月迄)	絹布張	二四,五三三	二六,四七七	一一,七〇八	四七三,六五三	二七,六九
大正四年	綿布張	三〇,〇三〇	二九,五八四	二四九,七五三	三,八三五	一八
同五年	綿布張	二六,九八三	三三,三九二	二〇五,八〇六	二	一八
同六年	綿布張	一四,八六九	二八,五〇七	二一五,〇八五	二	一八九
同七年	綿布張	四九,五二四	四九,三七三	三〇五,〇三三	二	一八〇
同八年	綿布張	四九,九七三	二六,〇三三	三八五,六五三	二	二二
同九年(九月迄)	綿布張	二六,四七七	一一,七〇八	四七三,六五三	二	一八〇
大正四年	其他	三二	二七九	二九,六五三	一五,二六〇	一八〇
同五年	其他	七四	一,二八〇	三,六三六	三,八八九	一四六
同六年	其他	九二	一,二二三	二,九五二	五,五四	二八四
同七年	其他	一八,二九六	三三,五〇三	三三,三六	五,九一	二八四
同八年	其他	六,九四六	七,八一七	二,七〇六	二九	二二
同九年(九月迄)	其他	二,三四二	四,七七七	一,五四	五,五七	二
大正四年	合計	二二,〇〇八	三〇,〇三〇	二九,五八四	二四九,七五三	二七,六九
同五年	合計	二二,五五六	二六,九八三	三三,三九二	二〇五,八〇六	一四六
同六年	合計	七,五八五	一四,八六九	二八,五〇七	二一五,〇八五	二八四
同七年	合計	一六,八九六	四九,五二四	四九,三七三	三〇五,〇三三	二八〇
同八年	合計	一五,七六一	四九,九七三	二六,〇三三	三八五,六五三	四一
同九年(九月迄)	合計	二四,五三三	二六,四七七	一一,七〇八	四七三,六五三	二七,六九

(一) 生産及輸出狀況  
二 最近ノ狀況

洋傘ハ主トシテ東京、大阪ノ二府ニ於テ生産シ、其ノ他名古屋、横濱、神戸(部分品ヲ前記二市ヨリ移入シ組立ヲ行フニ過キス)等之ニ次ク、然レトモ柄把及其ノ他ノ半製品ハ和歌山、茨城、栃木、兵庫、廣島、群馬、福井、神奈川、青森等ノ諸縣ヨリ産ス、輸出向洋傘ハ殆ト綿布張ニシテ、其輸出額戰前(大正二年)ニ於テハ百七十八萬餘圓(洋傘總輸出額百八十三萬餘圓)ニシテ、其ノ主要ナル輸出先ハ支那(大正二年百十七萬餘圓)ニシテ其ノ他蘭領印度海峽殖民地等ニモ多少ノ輸出アリシカ、歐洲戰爭勃發ニヨリ一時稍不況ノコトアリシモ、大正五年以降逐年活況ヲ呈シ、大正八年ニハ四百三十三萬餘圓(内支那輸出三百二十二萬餘圓)ニ達セリ、然ルニ大正九年三月以降財界ノ不況ニヨリ支那ヨリノ註文到ラサルノミナラス先約ノ取消頻々トシテ起リ、七、八月以降著シク不況ニ陥リ、殆ト休業状態ニナレリ然レトモ一、二月頃海外ヨリノ註文多カリシ爲、相當ノ輸出アリテ一月以降九月ニ至ル輸出額、三百十餘萬圓ニ達セリ、尤モ内地向洋傘ノ製造ハ季節製作ニシテ全部家内工業ニ屬ス、即チ十二月ヨリ翌年六月頃迄ハ斯業ノ製造時期ニシテ此ノ期ヲ過クレハ洋傘組立職工ハ羅紗「マント」類ノ製造ニ取カカルヲ以テ後半期ニ於ケル生産ハ僅少ナリ。

備考 綿布張物ハ、大抵黒ノ縞子張ニシテ、支那向特ニ上海向ハ、全部俗ニ縷骨ノ並受ト稱スル丸骨製ニシテ、二十五吋半ノ棕櫚竹柄ノモノヲ以テ標準品ト爲セトモ、近來三十吋及二十九吋物モ増加ノ傾向アリ、且棕櫚竹以外ニ木柄ノモノ増加シ棕櫚竹柄ノ六ニ對スル四(大正八年)ヲ占ムルニ至レリ、印度向ハ二十四吋ノ縷骨共受木柄付ニシテ生地ノ上等ナルモノ賣行多シ、尙近年玩具ニ類スル小形縷骨張ノ如キモノノ輸出ヲ見ル至レリ。



## (二) 市 價 (大正九年十月現在)

市價ハ製品ノ種類ノ無數ナルト、又製作所ノ生産組織ノ異ナルニヨリテ畫一ナラス、綿縞子藤娘製ニシテ二十八吋ノモノハ打當リ三十圓以上五十圓ニシテ、西陣琥珀二十吋、女物ハ打當リ四十圓以上百圓位ナリ。

## (三) 外國品トノ比較

本邦製洋傘ハ價格低廉ナルモ品質粗惡ニシテ、絲付ケ切レ易ク、又軸付破損シ易キ等ノ非難少カラス、是レ所謂粗製濫造ノ結果ニシテ、甚シキニ至リテハ再生傘ト稱シ、古傘骨ニ生地ノミ新規ニシテ輸出セルモノ少カラスト謂フ、又使用材料カ優良品ニ非サルコトモ非難ノ一因ナリ、即チ本邦製傘骨ハ一般ニ彈力ニ乏シクシテ曲リ易キヲ以テ、獨乙、瑞典等ノ製品ニ匹敵セス、生地ハ光澤惡シク、且其組織粗ニシテ地質薄弱ナレハ、到底英國品ニ及ハス、故ニ此ノ傘骨ト生地トノ改良ハ我洋傘製造界ニ於ケル最重要ナル研究事業トス。

## (四) 荷造 包 裝

半打ツツ「ボール」箱ニ入レ之ヲ三十打程鈍力製箱ニ入レ、或ハ近年防水紙ヲ以テ代用シ更ニ木製外箱ニ容ル。

## 三 結 論

本邦製洋傘ノ大部分ハ内地向ニシテ、其ノ需要期ハ春季ニ於テ最モ著シク、年々殆ント上半期中ニ於テ取引行ハルルヲ常トス、故ニ大正九年ニ於ケル財界不況ノ影響ハ、他ノ工業ニ比シ比較的少カリシト雖、財界ノ前途未タ豫測スヘカラサルモノアルヲ以テ樂觀ヲ許ササルモノト云フヘシ、尙輸出向ニ就テ見ルニ、本邦品ノ需要國タル支那ニ於テハ戰前ヨリ本邦製洋傘ノ需要多ク、又一面獨逸製傘骨英國製生地等ヲ使用シテ自國ニ於テ洋傘ノ組立ヲ行ヒツツアリシモ、歐洲戰爭以來本邦製傘骨及生地相當優良品ヲ製出スルニ至リシ故、支那ニ於テモ盛ニ是等ノ我原料ヲ使用シテ洋傘ノ組立ヲ爲スニ至リシカハ我製品ハ(完成品及部分品共)支那市場ニ於テ殆ト獨占ノ狀況トナレリ、然レトモ原料ノ品質尙歐洲品ニ及ハス、又完成品ノ粗製濫造甚シク、中ニハ再製傘ヲ輸出スルモノアリテ、一層其聲價ヲ失墜スルニ至レリ、故ニ今ニ於テ原料ノ研究ヲ遂ケ、且組製ヲ矯正スルニアラスンハ、歐洲産業恢復ノ曉ニハ英獨ノ原料竝ニ完成品カ支那市場ニ活躍スルノ日遠キニアラサルヲ豫期セサルヘカラス。

本邦洋傘ニ關シ特ニ研究ヲ要スヘキハ、傘骨問題及生地問題トス。

傘骨ハ戰前獨逸及瑞典品ヲ使用シ、特ニ瑞典品最優良ニシテ溝骨用トシテ缺クヘカラサルモノナリシモ、歐洲戰爭勃發後ハ、同國ヨリノ輸入困難トナリシ爲、漸次缺乏ヲ告クルニ至リシヲ以テ、製造業者ハ少カラサル打撃ヲ被リ、一時ハ之レカ爲ス業ノ前途ニ不安ヲ感セシモ、當業者ノ苦心研究ニ依リ略瑞典産ニ匹敵スルモノヲ製造スルニ至レリ、但シ本邦産鋼鐵ヲ使用スルトキハ、尙多少彈力ニ乏



シク折レ易キ缺點アリ、尙近來輸出洋傘ニ盛ニ使用セラレル丸骨ニハ、從來英、米、獨等ヨリ輸入スル地金ヲ使用ツシツアリシモ、是亦輸入困難トナリシヲ以テ、本邦產鋼鐵ヲ代用シ相當優良品ヲ得ルニ至レリ、斯ク本邦製傘骨ノ改良見ルヘキモノアルニ至リシト雖、外國製品ニ比シ尙及ハスシテ支那市場ニ於ケル不評尙著シキモノアルヲ聞ク。

洋傘用綿繻子ハ凡テ黑色ニシテ、男子用及雨天用洋傘ニ使用セラレ、輸出向洋傘ノ約九割ヲ占ム、從來全ク其ノ供給ヲ海外ニ仰キツツアリシヲ以テ、本邦ニ於テ之レカ生産ヲ見サリシ爲、洋傘製造業者ハ各地機業家ノ研究ヲ促シ、大正三年頃ヨリ輸入品ニ類似スルモノヲ得シカ、當時ハ未タ好適ノ傘地ト云フヲ得サリキ、然ルニ大正四年ニ入りテハ、略輸入品ニ代用スルコトヲ得ル製品ヲ得タリ、時恰モ歐洲戰爭ノ爲輸入品ノ缺乏ヲ來セシヲ以テ其代用品トシテ使用セラレルモノ少カラサルニ至レリ然レトモ其組織ノ密度、染色ノ整理等ニ至リテハ、未タ英國品ニ比シ遜色アルヲ以テ今尙支那市場ニ於ケル不評ヲ招キツツアリ、是レ製造方法ノ研究ニ付未タ十分ナラサルノ結果ナリトス、而シテ是等原料ノ改良ハ獨リ洋傘業者ノ努力ニ依ル能ハス、傘骨ニ關シテハ製鐵業者、綿繻子ニ關シテハ機業家ノ經濟的製造方法ノ研究ニ俟ツヘキモノ多カルヘシ。

### 第十二 玩具製造業

#### 一 玩具製造業ノ趨勢

(一) 生産高(農商務統計、同業組合統計等ヲ基礎トシタル推定)

年次	種別	セルロイド製	陶磁器製	其他	計
大正四年		一、二〇〇、〇〇〇	八八一、〇〇〇	不明	不明
同五年		一、六〇〇、〇〇〇	一、四一五、〇〇〇	八、九七〇、〇〇〇	一一、九八五、〇〇〇
同六年		三、九〇〇、〇〇〇	一、四三一、〇〇〇	九、一〇〇、〇〇〇	一四、四三一、〇〇〇
同七年		四、七八三、〇〇〇	二、二五四、〇〇〇	九、五六〇、〇〇〇	一六、五九七、〇〇〇
同八年		七、七四三、〇〇〇	三、八五〇、〇〇〇	九、六三〇、〇〇〇	二一、二二三、〇〇〇

製造戸數

一、五五八

職工數

男 五、一七九人  
女 二、五九三人

七、七七二人

會社數

一三

會社資本額

一、六一四、〇〇〇圓

(拂込濟額六二七、二〇〇圓)

(二) 輸入出狀況

(イ) 輸出高



國別	價	額	國別	價	額
支那		四八〇、〇〇〇	及望峯殖民地		二五五、〇〇〇
關東州		一五六、〇〇〇	濠太刺利		六四〇、〇〇〇
香港		一三四、〇〇〇	新西蘭		一八四、〇〇〇
英領印度		一、三〇五、〇〇〇	布哇		九五、〇〇〇
海峽殖民地		一四二、〇〇〇	英吉利		一、一四三、〇〇〇
蘭領印度		二九九、〇〇〇	佛蘭西		六七、〇〇〇
佛領印度		五、〇〇〇	白耳義		一〇、〇〇〇
露領亞細亞		五一、〇〇〇	伊太利		一、〇〇〇
比律賓諸島		二四六、〇〇〇	和蘭		五、〇〇〇
暹羅		二四、〇〇〇	瑞典		二、〇〇〇
墨西哥		一三一、〇〇〇	西班牙		一、〇〇〇
秘露		一七八、〇〇〇	丁抹		一、〇〇〇
智利		三〇四、〇〇〇	北米合衆國		五、七五二、〇〇〇
亞爾然丁		三二九、〇〇〇	加奈陀		五一六、〇〇〇
伯刺西爾		一五四、〇〇〇	計		一三、〇〇一、〇〇〇
埃及		九六、〇〇〇			

(ニ) 輸入高

(ハ) 玩具國別輸出表(大正八年)

紙	製	一、〇九二、六八〇	絹	製	一五四、七九二
ゴム	製	一、三四三、七六七	木	製	五二〇、五五三
陶磁	製	一、四八八、五九七	グ	製	六七六、二二八
セルロイド	製	三、三六三、七七二	綿	製	八六二、〇一一
ハ一モニカ		七六七、七九六	リ		
			キ		

(ロ) 品種別輸出高(大正八年)

年次	價	額
大正四年		四、五三三、四八六
同五年		七、六四〇、〇二〇
同六年		八、四〇九、五一八
同七年		一〇、一九〇、〇二八
同八年		一三、〇〇一、四三六
同九年(九月迄)		一八、一八七、〇七三



年次	價	額
大正四年		四二、〇九一
同五年		四三、九四〇
同六年		五九、五五〇
同七年		三七、二一七
同八年		八三、四一七
同九年(九月迄)		

(ホ) 五玩具國別輸入表(大正八年)

國別	價	額
英吉利		七、〇〇〇
北米合衆國		二九、〇〇〇
計		三七、〇〇〇

二 最近ノ狀況

(一) 生産及輸出狀況

「セルロイド」製玩具ハ主トシテ東京、大阪ニ於テ生産シ、其ノ品種ハ人形ヲ主トス、輸出先ハ米國

ヲ主トシ、其ノ全額輸出額ノ約七割ヲ占ム、而シテ大正九年初頭ヨリ前年ノ註文品ノ製造ニ忙殺セラレ、五月頃ハ最高ニ達セリ、然レトモ一面三、四月頃ヨリ財界大變動ノ影響ヲ受ケテ新規註文(毎年三、四月頃ヨリ海外ノ註文來ルヲ常トス)來ラサリシヲ以テ、前途ヲ危惧シテ漸次生産ノ調節ヲ爲スニ至リ、東京、大阪等ノ主産地ニ於テハ、八月頃ヨリ殆ト製造休業状態トナリ、僅ニ東京ニ於ケル千代田工業株式會社、其ノ他ノ二、三工場ニ於テ「ストック」品ノ製造ニ従事スルニ過キササルニ至レリ。

陶磁粘土製玩具ハ主トシテ京都府、愛知縣下ニ於テ生産シ、其ノ意匠最高尙ナルモノヲ出セリ、其ノ輸出先ハ、英國(不動人形)、北米合衆國(活動人形)、南米(白ノ生地焼)印度等ナリ、而シテ大正九年三月迄ハ前年ノ好況ヲ持續セシカ、四月以來財界不況ノ影響ヲ受ケテ、漸次衰退シ、六、七月ノ交其ノ極ニ達シ、工場ノ休業スルモノ續出シ、僅ニ日本玩具株式會社(愛知縣下)、名古屋製陶所(名古屋市)等ニ於テ前年ノ註文ノ殘品ヲ製造シツツアルニ過キス。

護謨製玩具ハ主トシテ東京、大阪ノ二府ニ於テ生産シ、其ノ主要ナル輸出先ハ英國(高尚ナル人形)伊太利(動物)、南米、濠洲、印度等ナリ、而シテ斯業ハ三、四月以降財界ノ影響ヲ受ケテ稍不況ニ陥リ、六、七、八ノ三箇月間ハ其ノ影響少カラサリシモ、元來護謨製玩具中ニハ内地向ゴム毬ヲ含ミ其ノ需要頗ル多キヲ以テ、財界ノ影響ハ他工業ノ如ク大ナラス、九月以降ニハ稍恢復ヲ見タルコトア



紙製玩具ハ主トシテ京都、大阪、愛知、東京等ノ府縣ニ於テ生産シ、内地向トシテハ教育玩具及繪合セ電車カバン、カルタ等其ノ種類無數ニシテ、輸出品ハ六、七分迄ハ米國向「クリスマス」用、ハローウイン用等（玩具用帽子、動物、人形鳴物、花、旗等）ノ季節物多シ、就中「クリスマス」用ノモノ需要最多クシテ大正八年末ヨリ大正九年一、二月頃迄ハ註文殺到シテ生産ニ最多忙ヲ極メシカ、四月以降財界ノ影響ニヨリ商談ノ取消ニ逢フモノ續出シ、六、七月ノ交ニハ其ノ不況最甚シカリシヲ以テ、爾來當業者ハ輸出向玩具ノ製造殆ト休止シテ、内地向玩具ノ製造ニ從事スルニ至レリ、綿製玩具ハ主トシテ大阪、京都、東京等ノ諸府ニ於テ産出シ、其ノ主要ナル輸出先ハ北米合衆國ニシテ、「イースター」用ノ兎雛等最需要多シ、而シテ斯業ノ近況ハ紙製玩具ト殆ト其ノ軌ヲ一ニス。

鐵力製玩具ハ主トシテ東京、大阪ノ二府ニ於テ生産シ、製品ノ主ナルモノハ機械玩具（自動車、汽車、電車、ボート、馬車等）ニシテ鳴物（ラッパ、銀笛）之レニ亞ク、輸出先ハ米國（高級品）ヲ主トシ其ノ他南洋、支那、印度等（下級品多シ）トス尙内地向需要甚タ多ク、歐洲戰爭以來好況ヲ持續シ、大正八年末ニ於テ實ニ全盛時代トナリシモ、大正九年四月以降ニ至リ財界ノ影響ヲ受ケテ稍不況ニ陥リシト雖其ノ程度他ノ玩具ニ比シテ大ナラス、主トシテ内地向玩具ノ製造ニ從事シツツアリ。「ハーモニカ」ハ主トシテ東京、静岡等ノ府縣ニ生産シ、輸出先ハ北米合衆國及英國ヲ主トス、而シ

テ斯業モ財界ノ影響ニヨリ海外ヨリノ新規註文、更ニナク特ニ七月以降其ノ不況甚シク各工場ハ殆ト休業シ、唯僅ニ濱松樂器會社、東京響聲社等ニ於テハ内地向ノ製造及「ストック」品ノ製造ヲナシツツアリ。

木製玩具ハ主トシテ神奈川、東京、大阪、愛知、富山等ノ府縣ニ於テ生産シ、其ノ需要ハ殆ト内地向ニシテ北米合衆國、濠洲、南洋等ニ自動車、積木、箱根細工等多少ノ輸出アリ、斯業モ財界ノ影響ヲ受ケ輸出向玩具ハ殆ト休業状態ニシテ、概シテ内地向玩具ノ製造ニ從事シツツアリ。

絨上ノ如ク、斯業ハ大正九年後半期ニ於テ生産甚シク減少セリト雖、大正八年末ヨリ大正九年初頭ニ至ル註文幅湊セルヲ以テ、上半期ニ於テ生産セラレタル海外註文品ノ輸出多ク、同年一月ヨリ九月ニ至ル輸出高ハ既ニ一千八百十八萬餘圓ニ達セリ。

## (二) 市 價 (大正九年十月現在)

玩具ハ其ノ種類無數ナルノミナラス、同一種類ニ屬スルモノニ於テモ製造所ニ依リテ品質、構造、意匠、外形等ニ多少ノ差異アリテ、製品統一セス、從テ其ノ市價ハ同一種類ノモノニテモ種々アリテ一律ニ追フコト能ハス、故ニ比較的統一セルニ、三ノ玩具ニ就テ其ノ市價ヲ述ヘントス。

### (イ) セルロイド製玩具

五吋裸體自由人形（一打當リ）



上 一〇八〇<sup>円</sup>  
 中 一〇五〇  
 下 一〇一〇  
 (ロ) 陶磁器製玩具(哥當リ)  
 四吋半裸體キユビー 六〇八〇<sup>円</sup>  
 同裸體キユビー(脚割シ) 八〇〇〇  
 七吋半服著 七〇〇〇乃至一五〇〇〇  
 (ハ) 護謨製玩具  
 ゴム 毬(一打當リ)  
 直 徑二吋(小) 〇〇七〇<sup>円</sup>  
 同 二吋半(中) 一〇〇〇  
 同 三吋(大) 一〇三〇  
 (ニ) 紙製玩具  
 紙製玩具ノ主ナルモノハ「クリスマス」用ノ安物ニシテ一哥五六十錢乃至一圓程度ノモノ最多シ。  
 (ホ) 綿製玩具

綿製玩具ハ主トシテ「イースター」用ノモノ多ク、其ノ需要ノ多キ人參持兎ニ就キ、一哥當リ市價ヲ述フレハ左ノ如シ。

一〇九三<sup>円</sup>  
 一〇二〇  
 一〇五〇  
 二〇三〇  
 二〇八〇  
 三〇五〇  
 四〇五〇  
 五〇〇〇  
 七〇〇〇

(三) 外國品トノ比較

本邦製玩具ハ外國製品(獨、英、米)ニ比シテ價格低廉ナリト雖、品質及意匠等一般ニ拙劣ナルヲ免レス、其ノ主ナル缺點ハ意匠ノ拙劣ナルト構造ノ脆弱ナルト、材料ノ不適當ナルニアリ、特ニ「ハモニカ」ニ於テハ、辨ニ使用スル金屬板不適當ナル爲其ノ音律久シキニ耐ヘス、又「セルロイド」製



玩具ニ於テハ、接合不完全ニシテ繼目ノ離レ易キノミナラス原料生地ノ薄キニ過クルカ爲、凹ミ易キ又原料生地ノ光澤外國品ノ如ク美ナラサル故、仕上ノ後其ノ色彩美ナラス「ゴム」毬ニ於テハ、空氣ノ脱出シ易キカ爲彈性ノ衰ヘ易ク、賦力製機械玩具ニ於テハ、「スプリング」用原料、不適當ナルノミナラス、又接合部ニ於テ、半田付ケノ粗ナル爲破損シ易キ等其ノ主ナルモノトス、就中「ハーモニカ」ノ辨ニ使用スル金屬「セルロイド」製玩具ノ生地（再製生地ハ問題ニナラス）ノ光澤ノ惡シキ、ゴム毬ノ空氣抜ケ易キ（米國ニ輸出スレハ内地ニ於テ入レタル空氣ト米國ノ空氣トニ壓力ノ差アリテ彈性乏シクナル故當業者モ輸出ゴム毬ハ輸出先ニ至リテ空氣ヲ入ルニ如カスト認メ居レリ）等ハ、我當業者ノ技術ノ研究ノ足ラサルニ基因スル所大ナルヲ以テ、一層ノ努力ヲ要スヘキモ、其ノ他ノ點ニ於テハ所謂粗製濫造ノ結果ニ外ナラサルヲ以テ、當業者ハ須ク反省シテ此ノ弊風ヲ矯正スルヲ要ス。

#### (四) 荷造包装

玩具ノ種類、形狀及大サニ從ヒテ、其ノ荷造包装ノ方法ニ多少ノ差異アルモ、其ノ主要ナルモノニ就テ述フレハ左ノ如シ。

「セルロイド」製玩具（人形、動物等）

長サ五吋以上ノモノハ一打ツツ、三吋以下ノ小物ハ半哥ツツ、七八吋ノモノハ一個ツツ「ボール」箱入レトシ、更ニ之ヲ二十才乃至三十才ノ木製外箱ニ入ル。

#### 陶磁器製玩具

愛知縣瀬戸産ノモノニアリテハ、四吋以下ノ小物ハ糠詰又ハ木毛詰トシ、十二才乃至十五才位ノ木製外箱ニ入ル、四吋以上ノモノハ一打ツツ「ボール」箱入トシ、十二才乃至十五才ノ木製外箱ニ入ル、日本玩具株式會社製ノモノニアリテハ、一個ツツ西洋紙ニ包ミタルモノヲ一打入レ「ボール」箱ニ詰メ更ニ十六、七才ノ木製外箱ニ入ル。

#### 護謨製玩具

ゴム毬ハ、二吋乃至三吋ノモノハ一打入レ、四吋乃至十二吋ノモノハ一箇入レ「ボール」箱ニ入レ更ニ二十才位ノ木製外箱ニ入ル。

風船ハ一箇ツツ「タルク」粉末ヲ附着シテ一哥「ボール」箱入トシ、更ニ二十五才位ノ木製外箱（内部ニ亞鉛引鐵板ヲ張リタル）ニ入ル。

#### 紙製玩具

「クリスマス」用玩具類ハ、普通一哥「小物ハ五哥入モアリ」ヲ「ボール」箱ニ入レ之ヲ五十箱乃至百箱ヲ約十五才乃至三十才ノ容積トシテ更ニ木製外箱ニ入ル。

#### 綿製玩具

四吋以下ノ小物ハ、一哥入ノ「ボール」箱入トシ、之ヲ三百箱内外木製外箱ニ入ル五吋以上ノモノ



ハ一打入ノ「ボール」箱ニ入レ之ヲ百二十箱内外木製外箱ニ入ル。  
「ハーモニカ」

一箇ツツ紙包トシタルモノヲ一箇ツツ「ボール」箱入トシ、更ニ半打ツツ「ボール」箱ニ入レ、更ニ五才内外ノ木製外箱ニ入ル。

### 三 結 論

玩具ハ歐洲戰爭中ニ著シク海外發展ヲ爲シタル重要輸出品ノ一ニシテ、即チ大正二年ニ於テハ其ノ輸出二百四十八萬餘圓（内北米合衆國八十二萬餘圓、英吉利三十三萬餘圓）ニ過キサリシカ、逐年増加シテ大正八年ニ於テハ一千三百萬餘圓、（内北米合衆國五百七十五萬餘圓、英領印度百三十餘萬圓、英吉利百十四萬圓）ニ達セリ、斯ク本邦品ノ海外發展セシ所以ノモノハ、戰爭ノ爲ニ獨逸製品ノ英米ヘ輸出杜絶（大正二年ニ於テハ獨逸ヨリ北米合衆國輸出約一千三百萬餘圓英吉利一千百六十萬餘圓）シタル結果ナリ、然ルニ英米ニ於テモ獨逸品輸入杜絶ト共ニ自給ヲ圖ラント努力シタル結果、自國內ニ於ケル斯業ノ發展見ルヘキモノアリ、即チ英ニ於テハ人形工場（主トシテ「デューズベリー」地方）ニ政府ノ補助ヲ與ヘテ、將來獨逸品ノ輸入防遏ニ努メシカ如キ、又北米合衆國ニ於テハ戰前人形工場僅ニ十箇所内外ニ過キサリシモ、今ヤ約百五十箇所トナリ、又風船工場ハ戰前三箇所ナリシモ現時三十箇所ナリ一面ニ於テ獨逸製品ハ、早ヤ大正九年ノ「クリスマス」用玩具トシテ、英國市場ニ現ハレシモ

ノ少カラスト云フ、敍上ノ如ク本邦製玩具ノ需要國タリシ英、米、並競争國タル獨逸ノ活躍侮ルヘカラサルニ至リテハ、本邦斯業ノ將來ハ樂觀ヲ許サス。

輸出工藝品ニ於テハ、意匠考案ニ關シテ孰レモ少カラサル苦心ヲ嘗メツアルモ、尙且其ノ目的ヲ達セシモノ尠シ、特ニ玩具ニ於テ最モ其ノ甚シキモノニアルヲ認ム、是レ蓋シ當業者ハ、意匠考案ノ基礎タル需要國民ノ風俗、習慣、迷信、趣味及其ノ推移ヲ知ルコト殆ト不可能ナルニ基因スルモノト云フヘシ、而モ本邦玩具製造業者ハ、概シテ小規模ナル家内工業者ニシテ、需要國ノ意匠考案ノ能力ニ乏シク、又之レカ資料ヲ得ルコト至難ニシテ、偶々適應セル考案ヲ爲スコトアルモ、互ニ相秘シテ一般ヲ知ルヲ得ス、僅ニ日本陶器株式會社（愛知縣）ニ於テハ米國ニ圖案技術者（但シ陶磁器製食器ヲモ含ム）ヲ駐在セシメテ機ニ應シテ其ノ他ノ意匠考案資料又ハ圖案ヲ本店ニ送り、之ニ依リテ製造ニ從事セシメツアルカ如シ、故ニ輸出玩具ノ意匠ヲ改善スル爲ニハ少クトモ當業者カ需要國タル米國ニ於ケル最新ノ意匠考案資料ヲ年々數回ニ亘リテ知得スルヲ必要ト認ム。

## 第十三 鉛筆製造業

### 一 鉛筆製造業ノ趨勢

(一) 生産高(實地調査並ニ同業組合ノ統計ニ依ル推定)



年次	種別	數	量	價	額
大正三年					一、四四〇、〇〇〇
同四年					一、八八四、〇〇〇
同五年					三、五〇〇、〇〇〇
同六年					四、七六〇、〇〇〇
同七年					三、五四一、九二〇
同八年					二、八四二、八〇〇

九四

(イ) 工場數 一一七  
 (ロ) 職工數 男一、三四四人 女八二七人 計 二、一七一  
 (ハ) 會社數 一一一  
 (ニ) 會社資本額 六、九〇〇、〇〇〇圓 (拂込濟一、八九五、〇〇〇圓)  
 (ホ) 原料消費數量及價額  
 一位(北海道産) 一、三六〇、八〇〇哥 五四四、三二〇圓  
 白杉材(米國産) 一五一、二〇〇哥 一八一、四四〇圓  
 黒鉛(朝鮮及内地) 四〇、〇〇〇貫目 二四〇、〇〇〇圓

年次	種別	數	量	價	額
大正四年					一八九、一〇三
同五年					一、二四八、三五四
同六年					二、一〇四、〇九六
同七年					二、〇四五、七五八
同八年					一、一四三、〇三〇
同九年(九月迄)					四八三、二九六

粘土(群馬縣) 一五、〇〇〇貫目 三七、五〇〇圓  
 塗料(印度ラック) 一二〇、〇〇〇封度 一八〇、〇〇〇圓

(二) 輸出高

鉛筆大正八年輸出額表

國別	種別	數	量	價	額
支那		四四、九一四		七〇	二、二九〇
關東		一八、六九八		三五	一〇、一四一
香港		二、五四一		四五	一六五、八八五
英領印度		五五、五六六		八五	二、四七七
海峽殖民地					
蘭領印度					
露領亞細亞					
比律賓諸島					

九五



年次	種別	數量	價	額
大正四年	暹羅	二,五八七	三,四六三	一一
同五年	英吉	四五,九七七	一〇,四三四	二六
同六年	佛蘭	一〇〇,四三六	二四,一六二	五四
同七年	伊太	五,六六六	八,〇八四	二七
同八年	西班牙	四六六	一七,〇六三	二七
同九年	土耳其	三一,六八三	四,〇四五	七
同十年	北米	八,五八九	一一,二一九	二三
同十一年	加拿大	一二,一八五	二,二五三	四
同十二年	墨西哥	二,三	六二,三〇三	一,一四三
計	新西蘭	一三	二,二五三	四
	濠刺利	五二	一一,二一九	二三
	喜望峯殖民地及ナタル	一	四,〇四五	七
	埃及	一三	一七,〇六三	二七
	伯刺西	一四	八,〇八四	二七
	亞爾然	五九	二四,一六二	五四
	智利	五	一〇,四三四	二六
	秘露	五	三,四六三	一一

九六

年次	種別	數量	價	額
大正四年	暹羅	七,九二五	一四,一七二	四
同五年	英吉	八,八一七	三〇,八七〇	四
同六年	佛蘭	一五,一三二	八九,四九一	四
同七年	伊太	一六,九七一	一一〇,六八六	四
同八年	西班牙	二〇,九八五	一四八,八三七	四
同九年	土耳其	二七,二一〇	一九五,三二一	四

鉛筆輸入國別表 (木鞘紙鞘入)

國別	種別	數量	價	額
英吉	利	九九	一四七	一四七
北米	合衆國	二〇,八七〇	一四八	一四八
計		二〇,九八五		

二 最近狀況

(一) 生産及輸出入狀況

鉛筆ノ主産地ハ、東京、大阪ノ二府ニシテ其ノ他和歌山、愛知、廣島、三重、神奈川等ノ諸縣ニ於テモ多少ノ生産アリ、而シテ其ノ種類數多アルモ主要ナル製品ハ、北海道産一位材(俗ニ「アララギ」ト稱ス)製及米國産シダー製HBトス。

斯業ノ稍發展ヲ見ルニ至リシハ、明治四十五年頃ニシテ其ノ顯著ナル發展ハ、歐洲戰爭以後ノ事ニ屬ス、之レヲ輸出狀況ヨリ見ルニ大正三年ニハ其ノ輸出五萬餘哥(四萬餘圓)ニ過キサリシカ、逐年增加シテ大正六年ニ於テハ、八百八十一萬餘哥(二百十餘萬圓)内英吉利百七萬餘圓ノ最高額ニ達セリ、然ルニ此好況時代ニ於ケル粗製品ノ輸出多クシテ、海外ニ於ケル非難ノ聲喧シキヲ以テ、大正八年ヨ



リ農省務省令ヲ以テ輸出検査ヲ執行シタル結果、其ノ弊風ハ稍矯正セラレシト雖、海外市場ニ於テ已ニ遺サレタル不評ハ容易ニ一掃セラレズ、一面平和來ニ及ヒ歐米ノ生産、漸次増加セルヲ以テ、本邦製鉛筆ノ輸出漸次不況ヲ見、大正八年ニ於テハ六十二萬餘哥(百十四萬圓)ニ減少シ、更ニ大正九年三月以降ノ財界ノ影響甚シク不況ニ陥リ、大正九年後半期ニ入り、工場數十二箇所ニ減シ(大正六年ニハ二十八箇アリ)且ツ工場モ、殆ト内地品生産ノミヲ營ミ、輸出生産ハ殆ト休業ノ状態ニアリ、而シテ大正九年(自一月至九月)ノ輸出二十一萬餘哥(四十八萬餘圓)ニ過キサルニ至レリ。

鉛筆ノ輸入ハ明治四十四年ノ四十五萬餘哥(七十七萬餘圓)ヲ以テ最高ヲ示シタリシカ、爾來本邦斯業ノ發展ニ從ヒ、普通鉛筆ノ輸入著シク減少シ、主トシテ僅少ノ米國製高級鉛筆ノ輸入ヲ見ルニ過キスシテ、大正八年ニ於ケル其額二萬餘哥(十四萬餘圓)ニ減少セリ。

(二) 市價哥當リ (大正九年十月現在)

主要製品ノ二、三ノモノニ就キ最近ノ市價ヲ述フレハ左ノ如シ、但シHB普通鉛筆ハ兩切りノモノトス。

品名	等級	市價
米國產シダー製HB普通鉛筆	上等品	三・五〇
"	中等品	三・〇〇

品名	等級	市價
北海道產一位製HB普通鉛筆	下等品	二・五〇
"	上等品	二・五〇
"	中等品	二・〇〇
"	下等品	一・五〇
コッピ―鉛筆	下等品	六・〇〇
"	上等品	四・〇〇

(三) 外國品トノ比較

海外ノ競争品ハ、獨逸品及北米合衆國品トス、而シテ本邦品ハ前記海外品ニ比シ、價格低廉ナリト雖品質概シテ劣等ナリ、特ニ高級品タル寫眞補筆用鉛筆、解剖用鉛筆、製圖用鉛筆、「コッピ―」鉛筆等ニ於テハ其ノ品質到底彼ニ及ハサルヲ遺憾トス、但シ普通HB鉛筆ニ於テハ、匹敵スルモノアルモ粗製ノ結果其ノ品質粗惡ノモノ少カラス、其ノ主要ナル點ハ(一)心ノ折レ易キモノ、(二)心ノ素質不均一ナルモノ、(三)心ノ硬度實用ニ適セサルモノ、(四)心カ鞘ノ中心ニアラサルモノ、(五)心ノ鞘ニ膠著セサルモノ、(六)鞘ノ硬キニ過クルモノ、(七)鞘ノ曲レルモノ、(八)鞘ノ木口正シカラサルモノ、(九)鞘ノ塗カ剝落又ハ變色スルノ虞アルモノ、(十)鞘ノ仕上不良ナルモノ、(十一)鞘ニ瑕疵アルモノ其ノ他鞘ノ不完全ナルモノ、(十二)長サノ短キモノ、(十三)護謄又ハ金具其ノ他附屬品ノ不完全ナルモノ、(十四)心カ鞘ニ充實セサルモノ等トス、而シテ前記鉛筆ハ輸出鉛筆ノ主要ナルモノナルヲ以テ



農商務省ニ於テハ省令ヲ以テ大正八年ヨリ輸出検査ヲ執行セル以來、製品漸次改良セラレシト雖、其改良ノ程度ハ検査標準點ニ止マリテ、標準點以上ニ改良ヲ圖ルモノ少キカ如シ。

(四) 包装

包装ハ内装及外装トシ、内装ハ普通品ニ就テハ、一打毎ニ木綿絲ヲ以テ二箇所ニテ結束シタルモノヲ、更ニ一哥入りノ「ボール」箱入トシ、又上等品ニ就テハ、普通品ト同様ニ一打ツツ結束シタルモノヲ更ニ半哥入りノ「ボール」箱入レトスルモノ多シ。

外装ニハ内地向ト輸出向トアリ、内地向ノモノハ百哥入りノ縦製箱ニシテ、輸出向ノモノハ略内地向ノモノト同一ナレトモ、包装ヲ強固ナラシムル爲ニ、木箱ノ兩端ニ近キ部分ヲ鐵板ニテ卷キ締ムルヲ常トス、尙「コッビー」鉛筆ニ於テハ、特ニ濕氣ヲ忌ムモノナルヲ以テ、防濕用トシテ木製外箱ニ入ルルニ先チ、一旦鍍力板ヲ以テ包裝スルモノトス。

三 結 論

鉛筆製造業ハ戰時中著シク海外ノ發展ヲ來タセルモ、粗製濫造ノ爲ニ著シキ不評ヲ歐米市場ニ遺シタルヲ以テ、平和克復ニ及ヒ日ナラスシテ歐米ヘノ輸出減少シ、主トシテ東洋方面ニ於テ僅ニ從來ノ需要アルニ過キス、一面輸出國タル獨米ノ活躍モ漸次其ノ歩ヲ進ムヘキヲ以テ、我當業者ニ於テハ先ツ粗製ヲ矯正スヘキハ勿論、尙製造技術ノ研究ニ一層ノ努力ヲ爲シテ優良品ノ輸出ヲ圖ルニアラスン

ハ、斯業海外發展ハ歐米ノミナラス東洋方向ニ於テモ悲觀セサルヲ得サルヘシ、尙注意ヲ要スル主ナル點ハ(一)原料、(二)技術、(三)機械ニ關スル諸問題トス。

(一) 原料

鉛筆ノ主要原料ノ一タル鞘材中最需要多キ北海道産一位(俗ニアラヤト稱ス)ノ蓄材高ハ漸次減少シ、近キ將來ニ於テハ消盡セラレントスル狀況ニアリ、且ツ本邦ニ於テハ、之ニ適當ナル材料亦豊富ナラサルヲ以テ、鞘材供給ノ策トシテ、經木卷鉛筆又ハ紙卷鉛筆ノ製造ノ研究ヲ遂ケ以テ鞘材代用品トシテ經木及紙ノ供給ヲ圖ラサルヘカラス、特ニ原料經木及原料紙ハ本邦ニ於テ其ノ生産豊富ニシテ價格低廉ナルノミナラス、此等原料ニ依ル鉛筆製造方法ハ簡單ナルヲ以テ、其ノ代用方法ノ研究ヲ遂クルニ於テハ、此等代用材料ハ將來有望ナルモノト認ム、但シ現時ニ在リテ製造上ニ於テ卷キ方幼稚ナルカ爲、製品未タ好評ヲ博スルニ至ラサルヲ惜ム。

鉛心ノ原料タル黒鉛並粘土ハ、本邦ニ於テ其ノ供給豊富ナルモ、外國品ニ比シ其ノ精煉法ノ幼稚ナル爲、品質劣等ナルモノ少カラス故ニ之カ改良ヲ遂ケサルニ於テハ、本邦鉛筆ハ根本的ニ改良サレサルモノト云フヘシ。

(二) 技術

本邦製鉛筆ハ普通品ニ於テハ、今ヤ獨米品ニ匹敵スルモノアルモ特殊高級品ニアリテハ、彼等ニ及



ハサルコト遠シ就中(イ)心ノ製造ニ關シテハ寫眞補筆用、解剖用、製圖用等ノ心、「コッビー」用ノ心(ロ)鉛筆製造ニ關シテハ、鞘材利用法(紙又ハ經木ノ代用)等最研究ヲ要スル點ナリトス、然レトモ鉛筆製造業ハ本邦ニ在リテハ、新規勃興ニ屬スルモノニシテ、經營者ハ製造ニ關シテハ概シテ職工ニ一任セルモノ多クシテ、研究的製作ヲ爲スモノ少シ、僅ニ主要ナル工場ニ於テハ研究的製作ニ従事スルモノアルモ、學理ニ基キテ研究セルモノ殆ント稀ナリ、其ノ結果製品ハ精良ナルモノ多カラス、今後益々技術上ノ研究ヲ必要トス。

(三) 機械

本邦ニ於テ使用セラルル鉛筆製造機械ハ、殆ト全ク内地製ノモノニシテ、近時漸ク改良セラレシト雖、尙未タ完全ノ域ニ達セス、故ニ獨米ニ於ケル嶄新ナル機械ヲ輸入シ精巧品ヲ廉價ニ製造スルコトヲ必要トス。

第十四 縫針製造業

(一) 生産高

年次	種別	數	量	價	額
----	----	---	---	---	---

大正三年	同	五九四、七一〇、〇〇〇		二九一、四五〇	
同四年	同	六四七、六六〇、〇〇〇		三八二、〇一九	
同五年	同	二、一五八、九〇八、〇〇〇		二、〇五九、五一六	
同六年	同	五、〇三三、七二〇、〇〇〇		六、一〇九、七一四	
同七年	同	七、〇〇二、九二六、〇〇〇		七、一二二、六七八	

(イ) 製造戸數 (大正七年) 二八九

(ロ) 職工數 男三、二〇〇人

(ハ) 會社數 女三、三三一八

(ニ) 會社資本額 一四

計 六、五三一

(資本及拂込濟額) 一、八一七、〇〇〇圓

内 拂込 九七四、〇〇〇圓

(二) 縫針輸出表

年次	種別	數	量	價	額
大正三年	同	一一八、〇〇〇、〇〇〇		三九、一二〇	
同四年	同	一二一、八七五、〇〇〇		五八、九四一	
同五年	同	一、六八九、三二八、〇〇〇		一、六三〇、五七九	
同六年	同	四、五八三、五八〇、〇〇〇		五、五九六、六三一	



大正七年	六、三二〇、八六四、三二〇	六、六二一、八四九
同八年	五、三八四、六三七、〇〇〇	三、四六一、一九三

一〇四

二 最近ノ狀況

(一) 生産並輸出狀況

一時輸出「メリケン針」製造ノ爲、般販ヲ極メタル本業モ、支那ニ起レル非買同盟、印度市場ノ不況以來頓ニ不振ニ陥リ、本年五、六月頃迄ハ可成リノ輸出モアリシカ、最近製造セルハ内地向品多ク、け針、ちやば、襟じめ、帆さし、皮さし、衣装トシ等種々アレトモ、注文ハ昨年ニ比シ三分ノ一ヲ出テス、生産數量又半數以下ニ激減シ、從テ職工モ漸次減退シ、好況時期ニ續出シタル富山、廣島大阪地方ノ大小工場ニテ廢業セルモノ頗ル多シ。

原料ハ最小二十五番線ヨリ最大十六番線ヲ使用シ、就中、十九番線乃至二十一番線最多ク、此ノ價額一貫目一圓八十錢内外ニシテ、主トシテ米、獨、奧國ヨリ購入シタルモノヲ内地鐵線業者ニ依リ規定ノ番號ニ引キ延ハシタルモノナリ。

(二) 市價

大正八年八、九月ヨリ本年七、八月頃ニ至ル間、各所トモ盛ニ投資リシタル爲、市價ニ大變動ヲ來タシ甚シキハ材料ノ價額ノミヲ以テ製品ノ提供セラレタルコトアリ。

(三) 荷造

二十五本宛錫箔ニ包ミ、黑色錆止用紙ニテ蔽ヒ、之レヲ十箇一束トシテ絲ニテ縛リ、二百束宛用紙ニ包ミテ弍力罐ニ入レ、(支那方面ハ五千本、印度方面ハ一萬本)更ニ、五十罐ヲ大ナル弍力罐ニ詰メ込ミ、六分板木箱ヲ以テ蔽ヒタルモノナレハ錆ヲ生スルコト等ニヨリ荷造ニ就イテ苦情ヲ受クルコト少シ。

(四) 結論

本邦製縫針ハ一般ニ外國品ニ比シ研磨惡シク、焼入一様ナラサルカ如ク、殊ニ獨逸品ニ比較シテハ原料モ遙カニ粗惡ニシテ、價額ハ彼ノ製品一本ト我製品十本ト匹敵スト稱セラレ、故ニ我製鐵所等ニテ針金ノ優良品製出ヲ企テ、原料ノ自給ヲ割スルト同時ニ、外國精良品ヲ模倣シ、又ハ人ヲ海外ニ派シテ充分技術ノ練磨ヲ圖ラサルハ、前途頗ル不安ナル狀態ニアリト云ハサルヘカラス。



終

